MAL-900D　KGV1　2019年2月1日発行

LIXIL

テールポートシグマⅢ／テールポートシグマⅢ 1500 基本・縦連棟・M合掌 取付説明書

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●施工は必ず専門の工事業者の方が行なってください。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

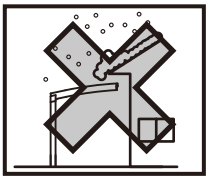
安全に関する記号	記号の意味
注意	●取付けを誤った場合に、使用者などが中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。
一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

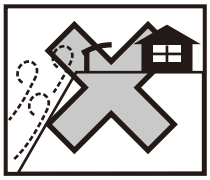
※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

＜施工の前に＞

注意

●当製品は簡易型車庫です。物置・遊び場あるいは住居の一部等への転用を目的として、みだりに改造・変更をしないでください。
●テールポートシグマⅢは積雪（新雪）20cmを超えない地域に設置してください。
●テールポートシグマⅢ1500（積雪地域用1500タイプ）は積雪（新雪）50cmを超えない地域に設置してください。
●建物の屋根から落雪を直接受けない位置に設置してください。
●強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上等の施工は避けてください。
●施工場所に寸法的に正しく納まるかどうか確認してください。
●給湯器や暖房機等の熱排気が製品内にこもるような場所に施工しないでください。排気による中毒のおそれがあります。
●傾斜地に設置する場合は、低い場所の埋込み深さを確保してください。
●雪がすべり落ちやすい屋根形状のため、1500タイプの場合隣地から最低50cm程度離して施工してください。また、施工する条件によってはさらに離して施工してください。





ポイント

●給湯器や暖房機等の熱排気が製品に当たらないように施工してください。排気による塗装劣化・剥離（はくり）のおそれがあります。

＜基礎工事について＞

注 意

●基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めていますが、現場によって（軟弱な地盤等）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
●寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
●柱内の水抜きができるよう、基礎には必ずぐり石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴（φ6）をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
●モルタルやコンクリート等が製品の表面に付着した場合は、速やかに拭取ってください。シミやムラ等の外観不良の原因になります。

ポイント

●モルタルやコンクリートには、塩分を含む砂（海砂）および塩素系強アルカリのコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤等）は使用しないでください。使用するとアルミ等の金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

＜施工の際に＞

注 意

●「使用上の注意」ラベルを貼っている柱に竪樋を取付けると、表示が見えなくなります。竪樋を取付けない側に表示ラベルを向けてください。
●ボルト、ネジは当社指定品を指定本数使用し、ゆるまないように締付け固定してください。
●アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
●製品の改造や、指定箇所以外の穴加工はしないでください。
●水濡れのおそれがありますので、指定の箇所にシーリングをしてください。
●シリコーンシーリング材を使用する場合は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、当社指定の脱アルコール系シーリング材を使用してください。

シーリング材メーカー	品名および品番
信越化学工業	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン(合)	トスシール380
東レ・ダウコーニング(株)	SE960

ポイント

●施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
●製品についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は、補修塗料で補修してください。

＜施工の後に＞

注 意

□ボルト、ネジを増し締めしてください。

ポイント

□取扱説明書は施主様にお渡しください。

INDEX

1　梱包明細表 …… 4
2　基本寸法と各部名称 …… 8
　1．各部名称 …… 8
　2．基本寸法 …… 10
3　基本の施工 方法 …… 15
　1．基礎の施工 …… 15
　2．柱と梁の取付け …… 16
　3．前枠・母屋・後枠の取付け …… 17
　4．側枠・アーチの取付け …… 18
　5．屋根パネルの取付け …… 21
　6．竪樋の取付け …… 23
4　M合掌の施工 方法 …… 24
　1．基礎の施工 …… 24
　2．本体の組立て …… 25
5　縦連棟の施工 方法 …… 26
　1．基礎の施工 …… 26
　2．本体の連結 …… 31
　3．M合掌の縦連棟 …… 32
　4．落雪カバーの取付け オプション …… 32

1　梱包明細表

※施工の前に梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

【1】部品セット

名　称	略　図	員　数					
		600タイプ			1500タイプ		
		50型	57型	14型	50型	56型	12型
前枠コーナーキャップR		1	1	—	1	1	—
前枠コーナーキャップL		1	1	—	1	1	—
後枠コーナーキャップR		1	1	—	1	1	—
後枠コーナーキャップL		1	1	—	1	1	—
梁キャップ		2	2	1	3	3	1
ブラケットカバーR		2	2	1	3	3	1
ブラケットカバーL		2	2	1	3	3	1
アンカー棒		2	2	1	3	3	1
穴隠しシール		20 (24)	20 (24)	10 (12)	30 (36)	30 (36)	10 (12)
雨樋アタッチメント		1	1	1	1	1	1
雨樋穴ふさぎキャップ		1	1	1	1	1	1

【1】部品セット（つづき）

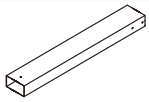
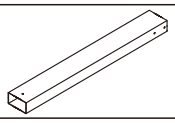
名　称	略　図	員　数					
		600タイプ			1500タイプ		
		50型	57型	14型	50型	56型	12型
アタッチメントパッキン		2	2	2	2	2	2
ドレンエルボ　φ40用		1	1	1	1	1	1
後枠取付金具		2	2	1	3	3	1
92°エルボ　φ40用		2	2	2	2	2	2
でんでん		3	3	3	3	3	3
接着剤		1	1	1	1	1	1
パネル緩衝材		24 (32)	24 (32)	8	24 (32)	32 (40)	8
【1-1】M8×20 六角ボルト (平座金・緩み止め付)		14	14	7	21	21	7
【1-2】φ5×55 サラタッピンネジ		4	4	2	—	—	—
【1-3】φ5×75 サラタッピンネジ		—	—	—	6	6	2
【1-4】φ4×10 ワッシャーヘッドネジ		146 (174)	160 (191)	46 (54)	170 (203)	184 (220)	46 (54)
【1-5】φ4×13 ナベドリルネジ		47 (56)	52 (62)	14 (16)	52 (62)	58 (69)	14 (16)
取付説明書	—	1	1	—	1	1	—
取扱説明書	—	—	—	—	1	1	—

※（　）内は間口30型です。

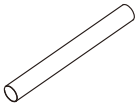
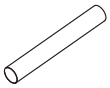
【2】主柱セット

名　称	略　図	員　数							
		2本入	1本入	ロング・(凍上標準)2本入	ロング・(凍上標準)1本入	(凍上ロング)2本入	(凍上ロング)1本入	H28 1本入	(凍上H28)1本入
標準柱 H18		2	1	—	—	—	—	—	—
ロング柱 H23・(凍上標準柱)		—	—	2	1	—	—	—	—
(凍上ロング柱 H23)		—	—	—	—	2	1	—	—

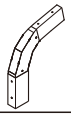
【2】主柱セット（つづき）　※（　）は1500タイプのみの設定です。

名　称	略　図	員　数							
		2本入	1本入	ロング・(凍上標準)2本入	ロング・(凍上標準)1本入	(凍上ロング)2本入	(凍上ロング)1本入	H28 1本入	(凍上H28)1本入
ロング柱 H28		−	−	−	−	−	−	1	−
（凍上ロング柱 H28）		−	−	−	−	−	−	−	1
取扱説明書	−	1（−）	−	1（−）	−	−	−	1（−）	−

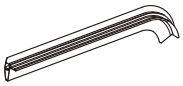
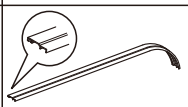
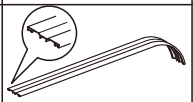
【3】竪樋セット

名　称	略　図	員　数	
		L3100	L1000
竪樋 L＝3100　φ40		1	−
竪樋 L＝1000　φ40		−	1

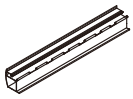
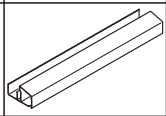
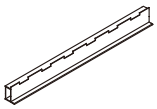
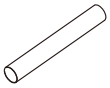
【4】ブラケットセット

名　称	略　図	員　数		
		600タイプ		1500タイプ
		2本入	1本入	1本入
ブラケット		2	1	1

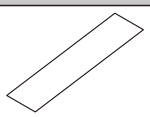
【5】幅セット　※（　）は1500タイプの呼称です。

名　称	略　図	員　数			
		50型	57型・(50型)	(56型)	14型・(12型)
側枠R		1	1	1	−
側枠L		1	1	1	−
側枠カバーR		1	1	1	−
側枠カバーL		1	1	1	−
アーチ		6	7	8	2
アーチカバー		6	7	8	2

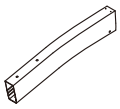
【6】長さセット　※（　）は1500タイプの呼称です。

名　称	略　図	員　数					
		50型		57型（56型）		14型（12型）	
		3本入	4本入	3本入	4本入	3本入	4本入
前枠		1	1	1	1	1	1
後枠		1	1	1	1	1	1
母屋		3	4	3	4	3	4
竪樋 φ40		1	1	1	1	−	−

【7】屋根材セット

名　称	略　図	員　数		
		1枚入	3枚入	4枚入
屋根パネル		1	3	4

【8】梁セット

名　称	略　図	員　数	
		2本入	1本入
梁		2	1

■梱包明細表（つづき）

【9】M合掌部品セット

名　称	略　図	員　数					
		600タイプ			1500タイプ		
		50型	57型	14型	50型	56型	12型
M合掌カバー材（下）		4	5	ー	4	5	ー
M合掌キャップ		2	2	ー	2	2	ー
梁連結金具		4	4	2	6	6	2
【9-1】 M8×75六角ボルト		4	4	2	ー	ー	ー
【9-2】 M8×90六角ボルト		ー	ー	ー	6	6	2
【9-3】 M8平座金		8	8	4	12	12	4
【9-4】 M8バネ座金		4	4	2	6	6	2
【9-5】 M8袋ナット		4	4	2	6	6	2
【9-6】 φ4×13ナベドリルネジ		8	9	ー	8	9	ー

【10】M合掌連棟部品セット

名　称	略　図	員　数
M・Y合掌連棟カバー材（上）		1
M合掌連棟カバー材（下）		1
【10-1】φ4×13ナベドリルネジ		4

【11】M・Y合掌棟木セット

名　称	略　図	員　数
M・Y合掌棟木		1

【12】連棟用幅セット

名　称	略　図	員　数			
		50型	57型・(50型)	(56型)	14型・(12型)
アーチ		7	8	9	2
アーチカバー		7	8	9	2

※（　）は1500タイプの呼称です。

【13】連棟部材セット

名　称	略　図	員　数	
		24・27用	30用
前枠スリーブ		1	1
後枠スリーブ		1	1
母屋スリーブ		3	4
【13-1】φ4×13ナベドリルネジ		46	54

【14】耐風圧補強ネジセット ※1500タイプのみ。 オプション

名　称	略　図	員　数
【14-1】φ5×13ナベドリルネジ		25

【15】屋根材ホルダーセット オプション

名　称	略　図	員　数					
		600タイプ			1500タイプ		
		7本入（50型）	8本入（57型）	2本入（14型）	8本入（50型）	9本入（56型）	2本入（12型）
屋根材ホルダー		7	8	2	8	9	2
屋根材ホルダースペーサー		18	18	6	20	20	6
【15-1】φ5×13ナベドリルネジ		19	19	6	22	22	6
取付説明書	−	1	1	−	1	1	−

【16】落雪カバーセット オプション

名　称	略　図	員　数		
		50型	57型（56型）	14型（12型）
落雪カバー		1	1	1
落雪カバーキャップ		2	2	1
スペーサー		4	4	2
【16-1】φ5×13ナベドリルネジ		21	21	4

※（　）は1500タイプの呼称です。

【17】母屋補強材セット※ オプション

名　称	略　図	員　数
母屋補強材（L＝1500）		2
【17-1】φ4×13ナベドリルネジ		9
【17-2】φ5×13ナベドリルネジ		5
取付説明書	ー	1

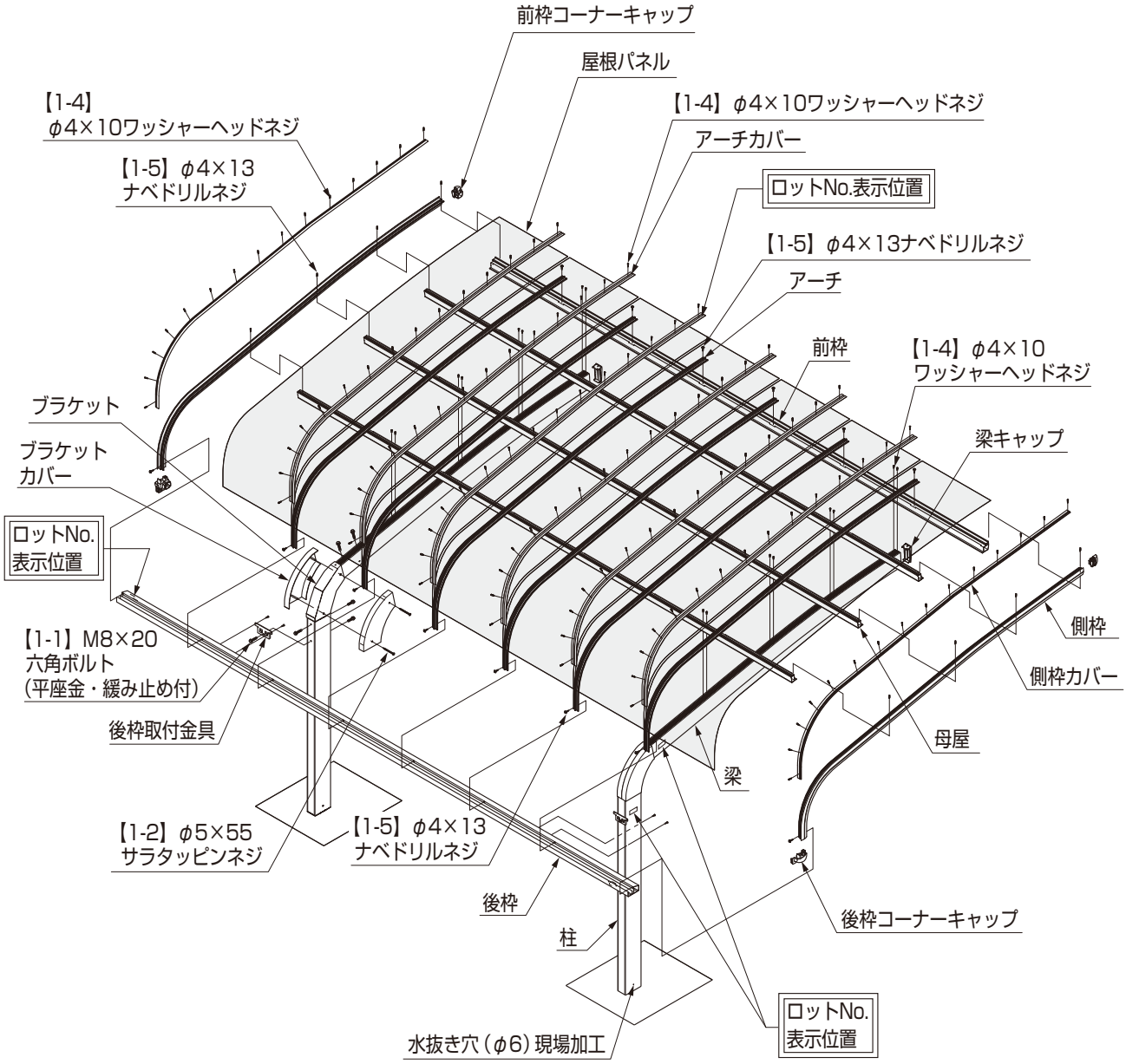
※耐積雪・耐風圧仕様の場合

D452_200804A
MAL-900_200804A

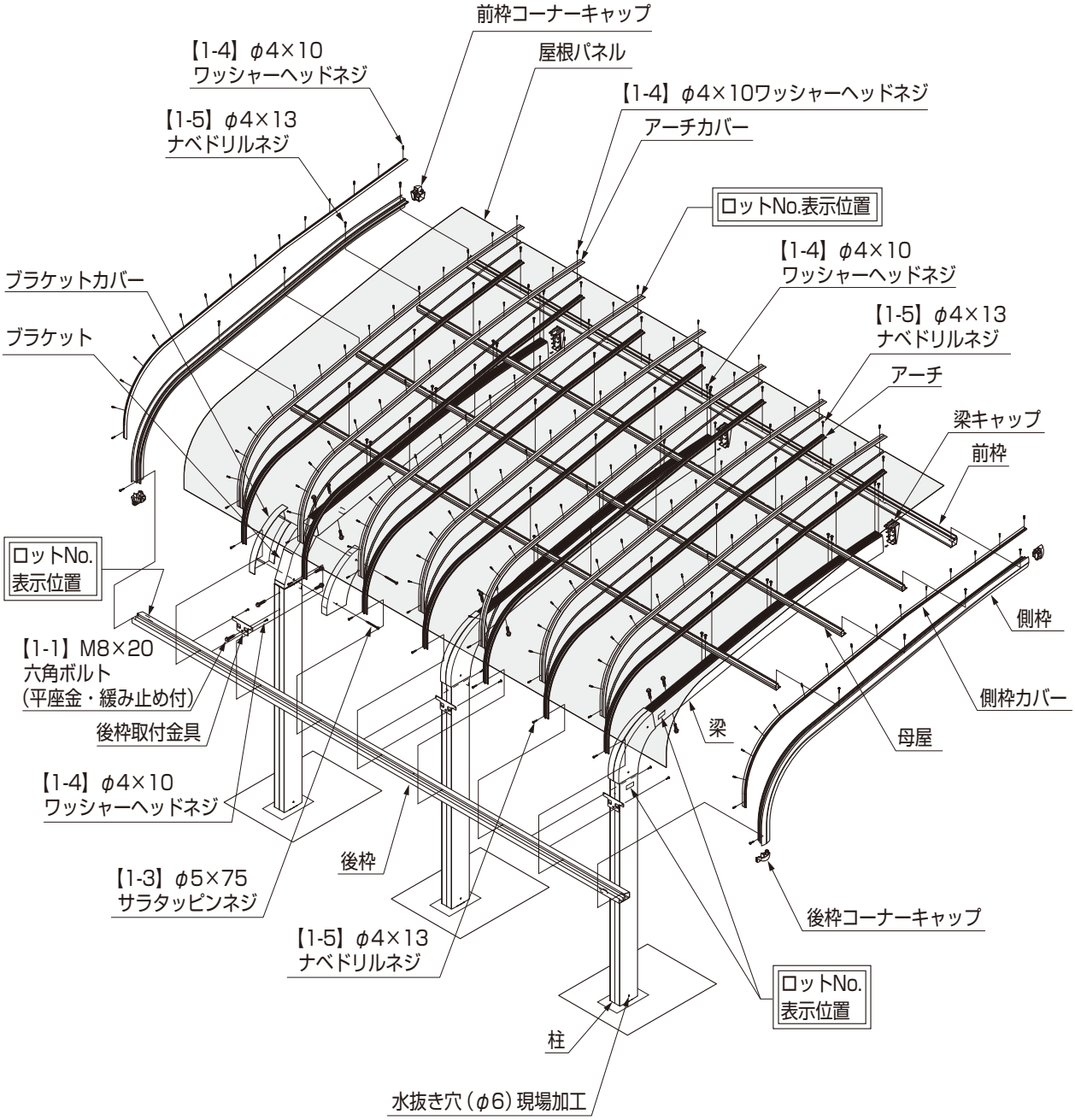
2　基本寸法と各部名称

1. 各部名称

1-1　600タイプ



1-2 1500タイプ


前枠コーナーキャップ
屋根パネル
【1-4】φ4×10
ワッシャーヘッドネジ
【1-4】φ4×10ワッシャーヘッドネジ
【1-5】φ4×13
ナベドリルネジ
アーチカバー
ロットNo.表示位置
【1-4】φ4×10
ワッシャーヘッドネジ
ブラケットカバー
【1-5】φ4×13
ナベドリルネジ
ブラケット
アーチ
梁キャップ
前枠
ロットNo.
表示位置
側枠
【1-1】M8×20
六角ボルト
(平座金・緩み止め付)
側枠カバー
後枠取付金具
梁
母屋
【1-4】φ4×10
ワッシャーヘッドネジ
後枠
【1-3】φ5×75
サラタッピンネジ
後枠コーナーキャップ
【1-5】φ4×13
ナベドリルネジ
ロットNo.
表示位置
柱
水抜き穴(φ6)現場加工

2. 基本寸法

※図は標準柱仕様を示します。(　) はロング柱23仕様、[　] はロング柱28仕様を示します。
※構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

2-1 600タイプ 間口

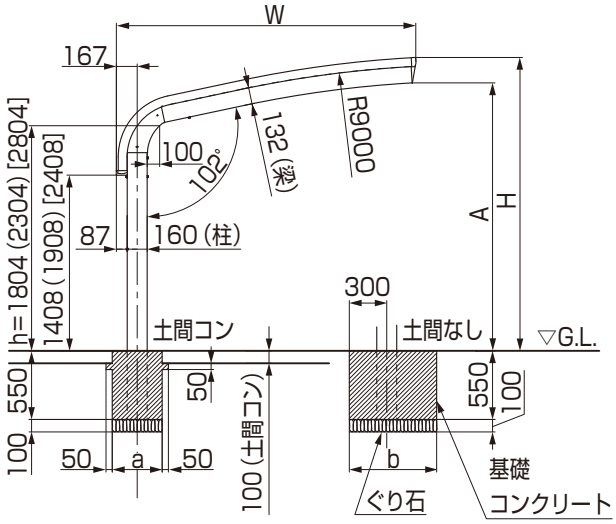


図2-1　24・27サイズ

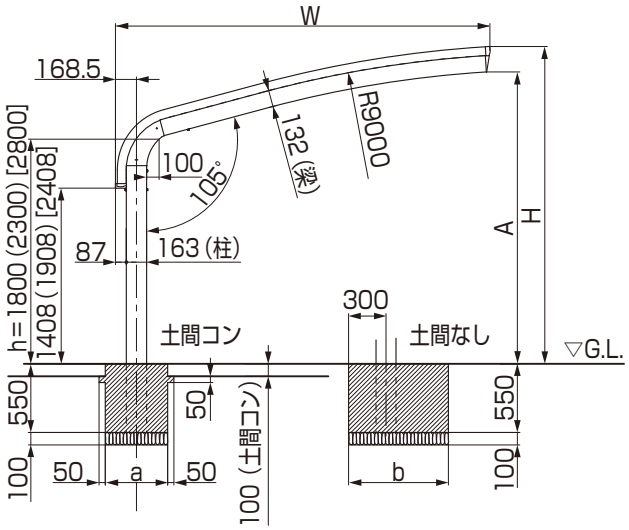


図2-2　30サイズ

表2-1

間口	W	A	H	a	b
24	2400	2147 (2647) [3147]	2351 (2851) [3351]	400	700
27	2700	2211 (2711) [3211]	2415 (2915) [3415]	400	700
30	3000	2339 (2839) [3339]	2543 (3043) [3543]	500	800

2-2 1500タイプ 間口

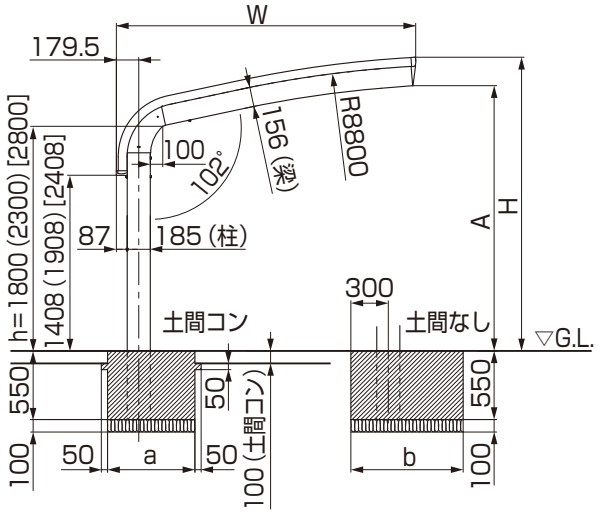


図2-3　24・27サイズ

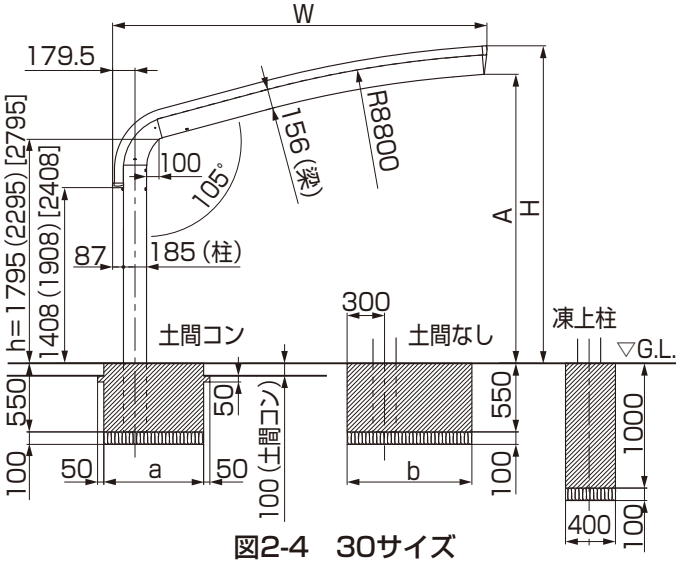


図2-4　30サイズ

表2-2

間口	W	A	H	a	b
24	2400	2126 (2626) [3126]	2354 (2854) [3354]	700	900
27	2700	2190 (2690) [3190]	2418 (2918) [3418]	700	900
30	3000	2316 (2816) [3316]	2544 (3044) [3544]	800	1000

補 足

●凍上標準柱の高さ (H) は標準＋50mmになります。

2-3 奥行き50・57タイプ（600タイプ）

※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※〈　〉は奥行き57型を示します。

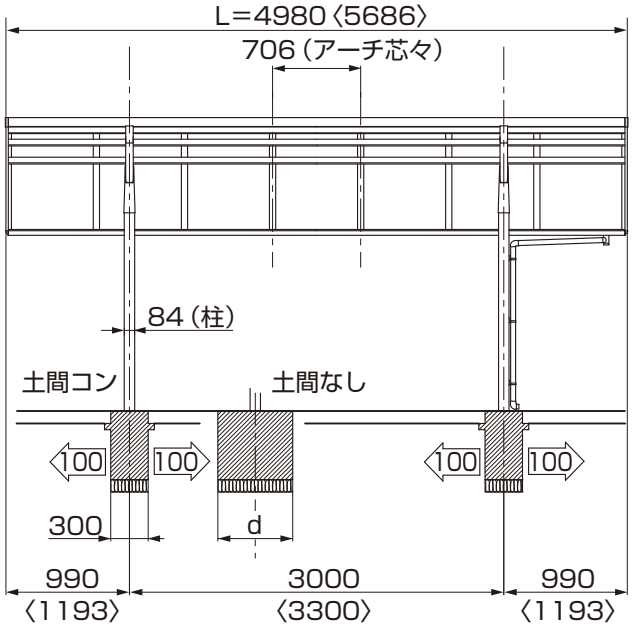
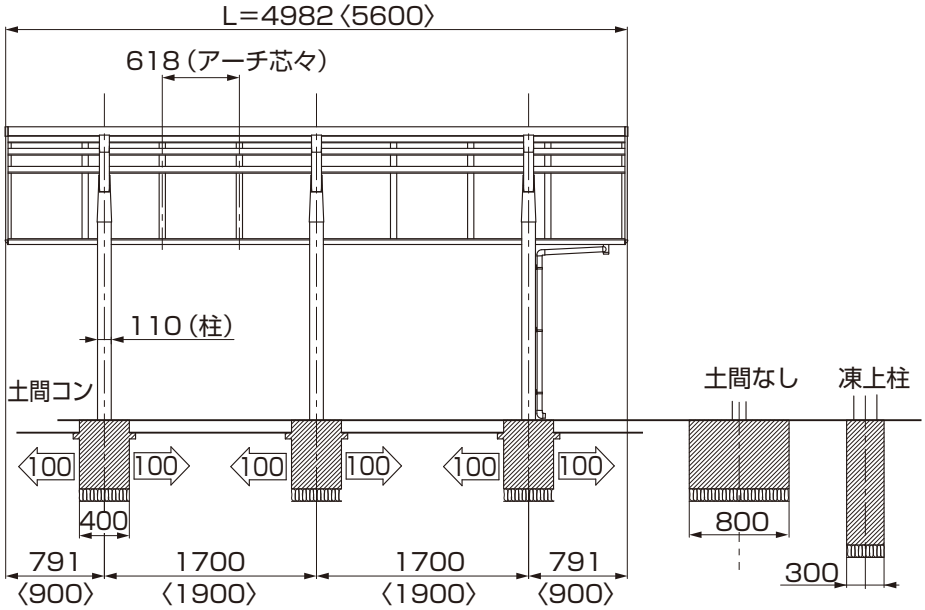


表2-3

サイズ	d
24	600
27	600
30	700

2-4 奥行き50・56タイプ（1500タイプ）

※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※〈　〉は奥行き56型を示します。



2-5 奥行き14延長タイプ（600タイプ）

※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※＜　＞は奥行き57型を示します。

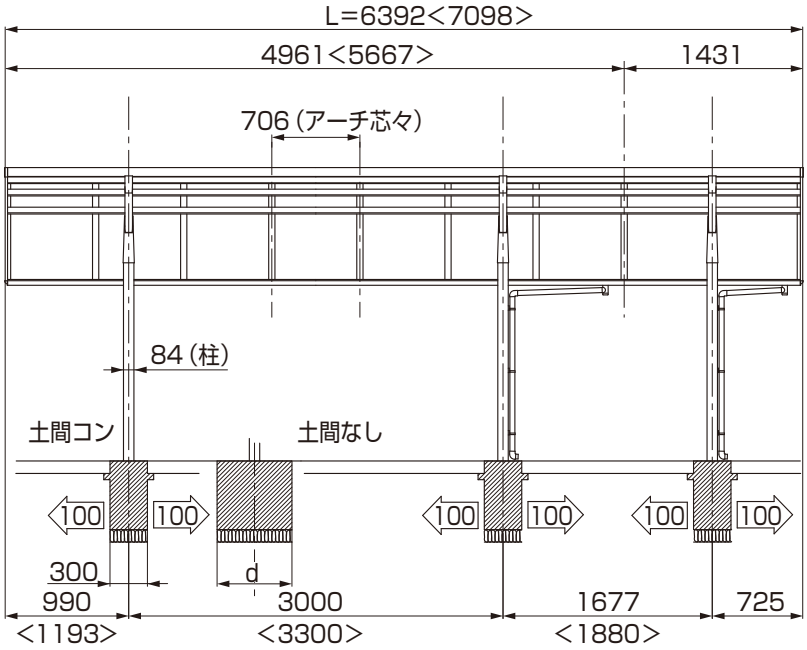
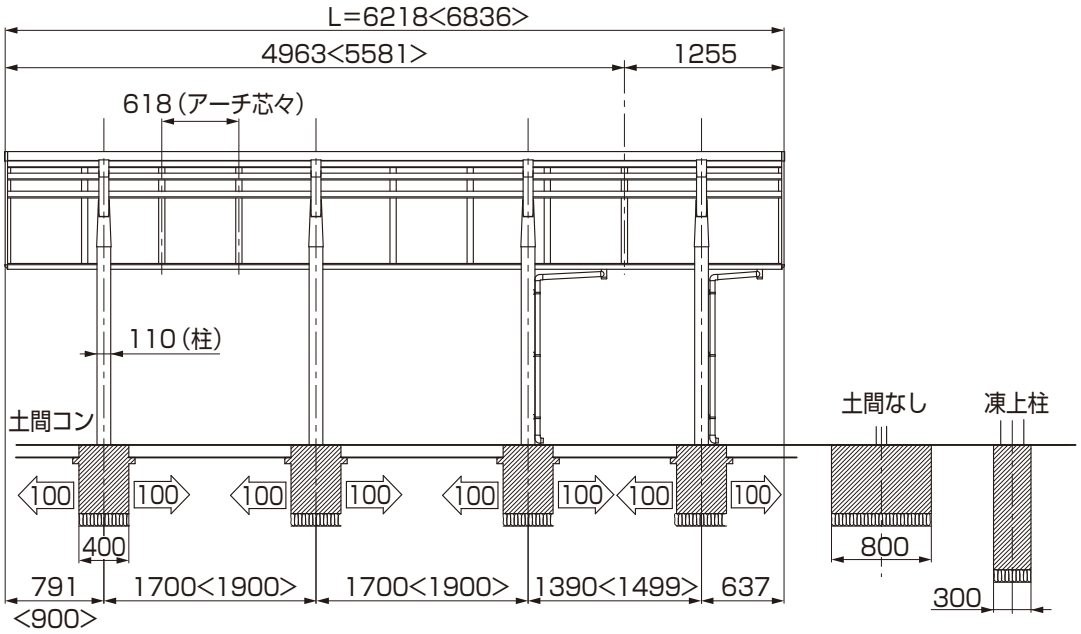


表2-4

サイズ	d
24	600
27	600
30	700

2-6 奥行き12延長タイプ（1500タイプ）

※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※＜　＞は奥行き56型を示します。



2-7 奥行き縦連棟タイプ ※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。

(1) 600タイプ ※< >は奥行き57型を示します。

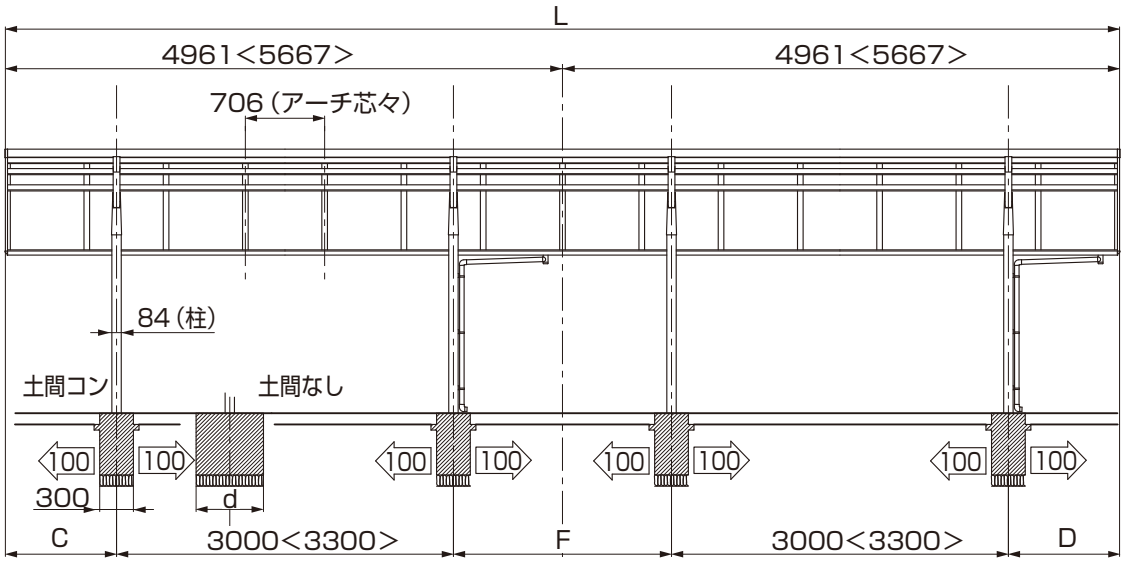


表2-5 寸法表

奥行き	L	F	C	D
50−50	9922	1942	990	990
50−57	10628	2145	990	1193
57−57	11334	2348	1193	1193

表2-6

サイズ	d
24	600
27	600
30	700

(2) 1500タイプ ※< >は奥行き56型を示します。

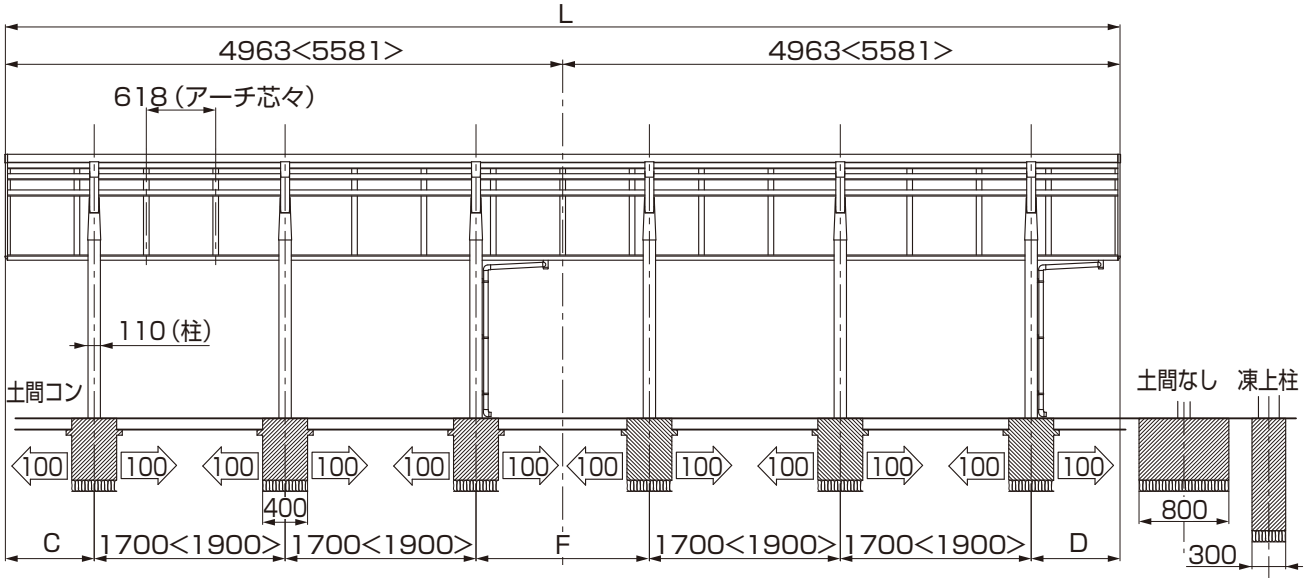


表2-7 寸法表

奥行き	L	F	C	D
50−50	9926	1544	791	791
50−56	10544	1653	791	900
56−56	11162	1762	900	900

2. つづき

2-8 間口M合掌 ※図は標準柱仕様を示します。(　) はロング柱23仕様、[　] はロング柱28仕様を示します。

(1) 600タイプ

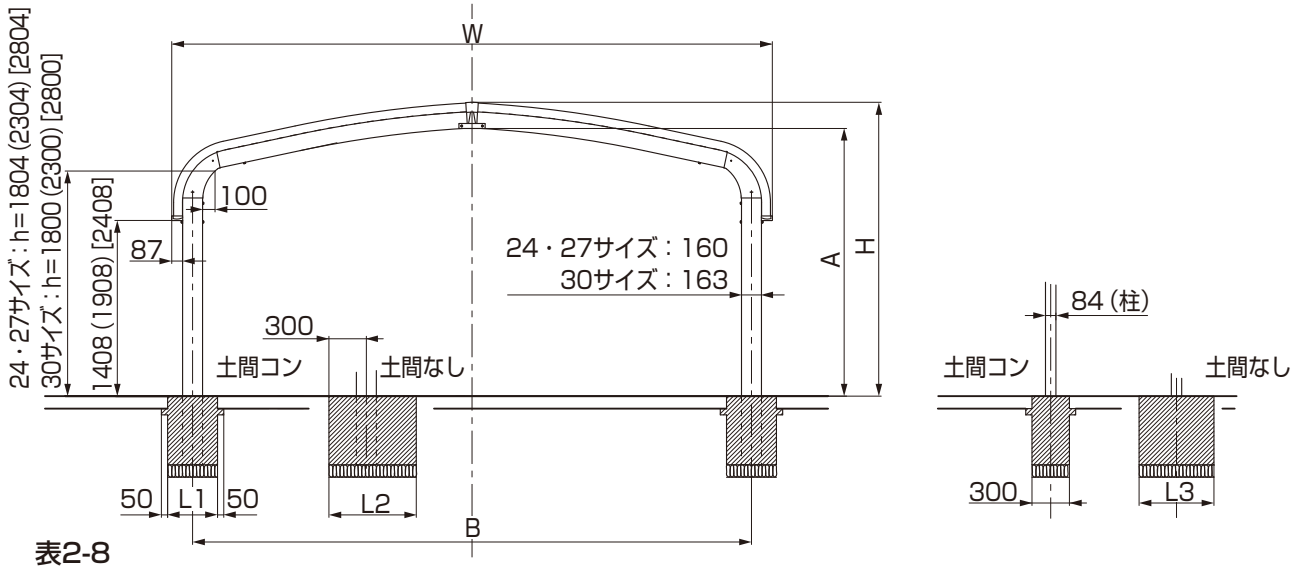


表2-8

間口	W	H	A	B	L1	L2	L3
24+24	4814	2355 (2855) [3355]	2145 (2645) [3145]	4480	400	700	600
27+27	5414	2418 (2918) [3418]	2208 (2708) [3208]	5080	400	700	600
30+30	6014	2546 (3046) [3546]	2336 (2836) [3336]	5677	500	800	700

(2) 1500タイプ

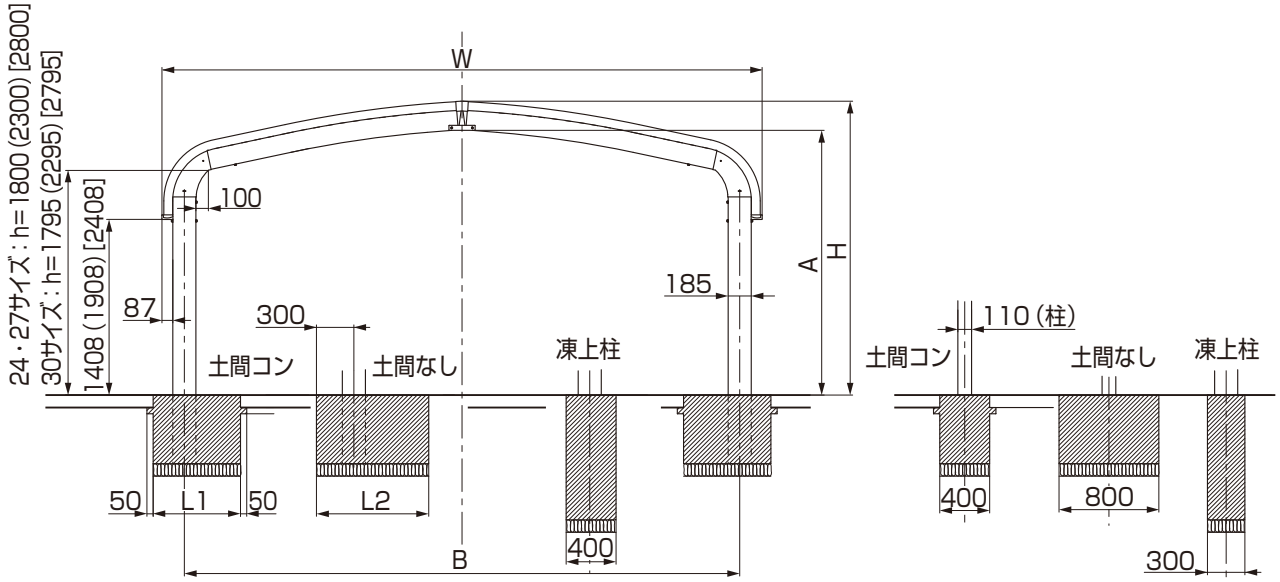


表2-9

間口	W	H	A	B	L1	L2
24+24	4818	2357 (2857) [3357]	2123 (2623) [3123]	4459	700	900
27+27	5418	2421 (2921) [3421]	2186 (2686) [3186]	5059	700	900
30+30	6018	2548 (3048) [3548]	2312 (2812) [3312]	5659	800	1000

補 足

●凍上標準柱の高さ (H) は標準+50mmになります。

3　基本の施工方法

1. 基礎の施工

1-1　基礎位置の墨出し

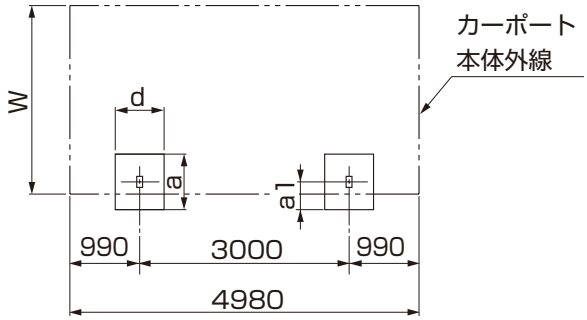


図1-1　600タイプ 50サイズ

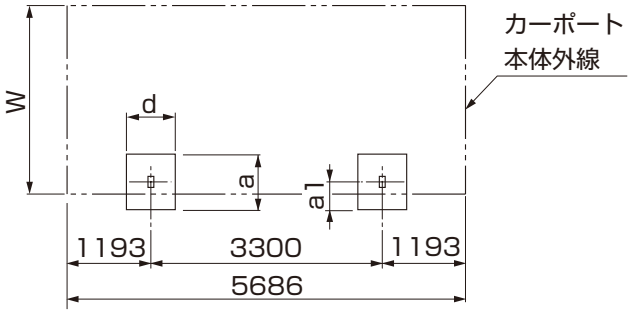


図1-2　600タイプ 57サイズ

表1-1　600タイプ寸法表　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート		
		a	a1	d	a	a1	d
24	2400	700	300	600	400	200	300
27	2700	700	300	600	400	200	300
30	3000	800	300	700	500	250	300

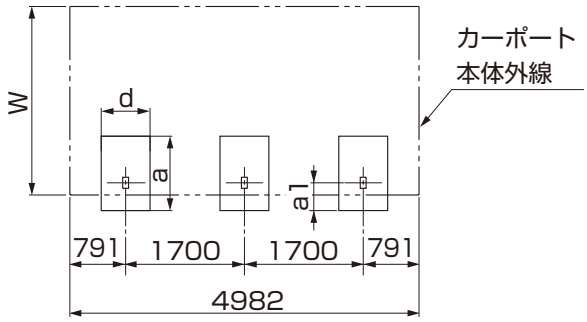


図1-3　1500タイプ 50サイズ

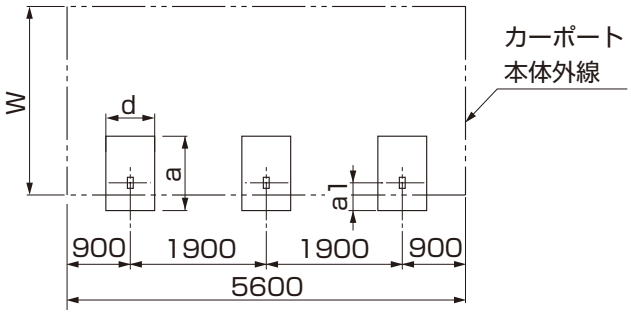


図1-4　1500タイプ 56サイズ

表1-2　1500タイプ寸法表　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
		a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
24	2400	900	300	800	700	250	400	400	200	300
27	2700	900	300	800	700	250	400	400	200	300
30	3000	1000	300	800	800	250	400	400	200	300

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1. つづき

1-2 基礎寸法

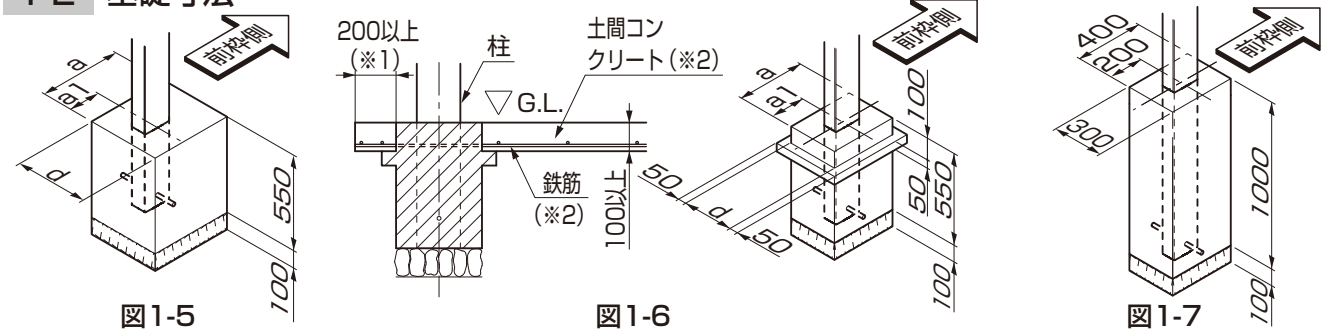


図1-5
土間なし仕様の場合

図1-6
土間コンクリート仕様の場合

図1-7
凍上仕様の場合(1500タイプのみ)

表1-3　600タイプ

サイズ	土間なし			土間コンクリート		
	a	a1	d	a	a1	d
24・27	700	300	600	400	200	300
30	800	300	700	500	250	300

表1-4　1500タイプ

サイズ	土間なし			土間コンクリート		
	a	a1	d	a	a1	d
24・27	900	300	800	700	250	400
30	1000	300	800	800	250	400

ポイント

- 基礎上面と土間コンクリートの縁端距離は200mm以上になるようにしてください。(※1)
- 土間コンクリートには、鉄筋を敷設してください。(※2)
- 構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

2. 柱と梁の取付け

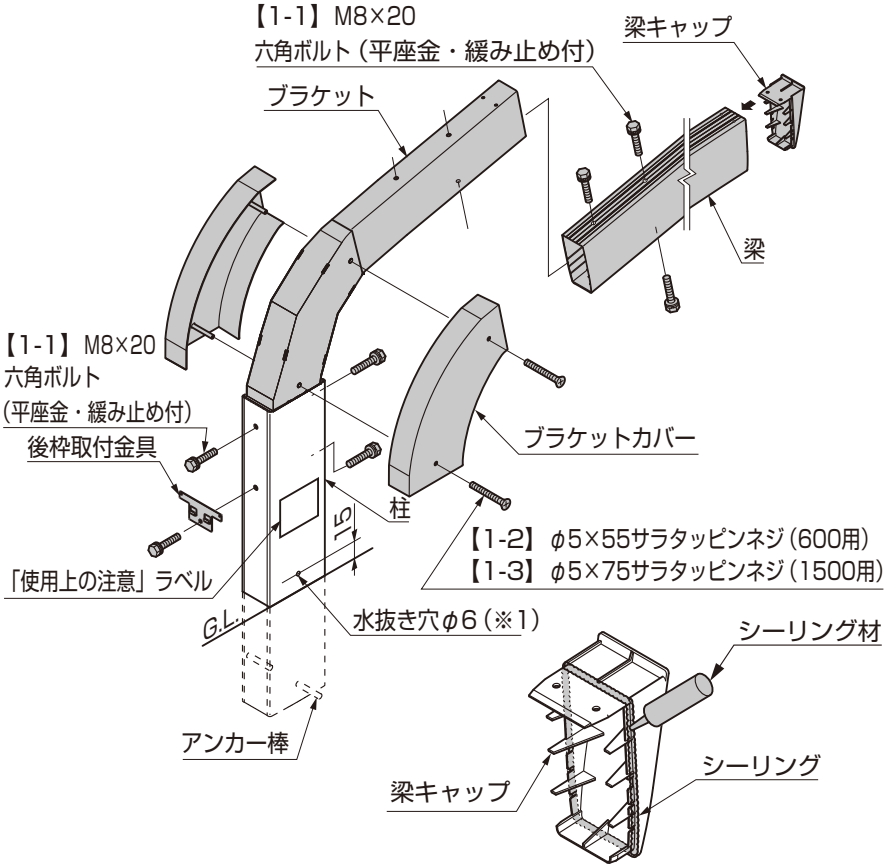


図2-1　梁キャップシーリング箇所

①柱にアンカー棒を差込んでください。
②柱にブラケットを【1-1】で取付けてください。
③梁をブラケットに【1-1】で取付けてください。
④ブラケットカバーR、ブラケットカバーLを【1-2】又は【1-3】で取付けてください。
⑤後枠取付金具を柱に【1-1】で共締めしてください。
⑥梁キャップにシーリング材を充てんして、梁に取付けてください。(図2-1参照)

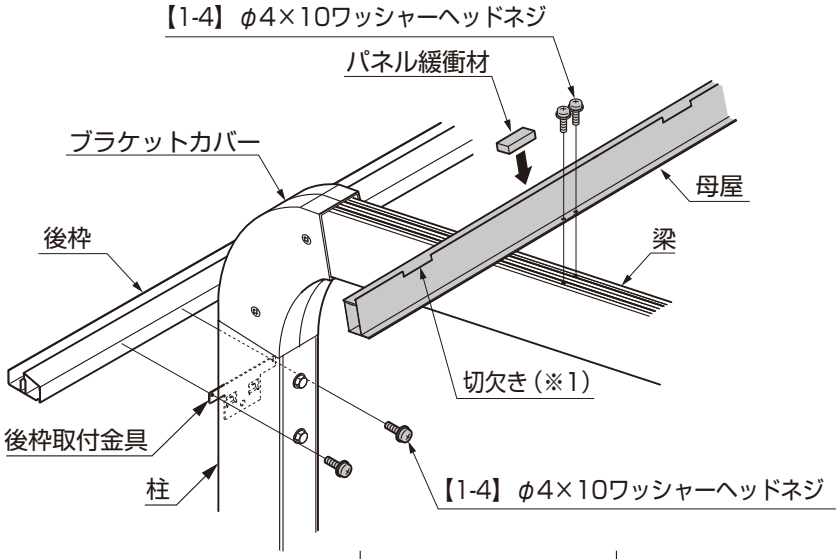
注 意

- 「使用上の注意」ラベルを貼っている柱に竪樋を取付けると、表示が見えなくなります。竪樋を取付けない側に表示ラベルを向けてください。
- 柱のG.L.付近(地上側)にφ6水抜き穴をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。(※1)

ポイント

- ロング柱を凍上標準柱として使用する場合は、埋込みを1000mmにして施工してください。

3. 前枠・母屋・後枠の取付け



①後枠を後枠取付金具に【1-4】で取付けてください。（図3-1参照）

ポイント

- 耐風圧仕様の場合は梁と母屋の交差する場所に【17-2】を1つ追加してください。
- 詳細は「4-2 耐風圧オプションの取付け オプション」を参照してください。

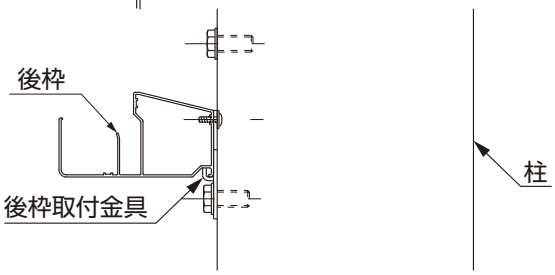


図3-1

②パネル緩衝材を母屋の切欠きと切欠き（※1）の間に貼付けてください。
③前枠側にフィン部を向けて、母屋を梁に【1-4】で取付けてください。（図3-2参照）

ポイント

- 母屋補強材の取付け手順は、「母屋補強材セット」同梱の取付説明書を参照してください。

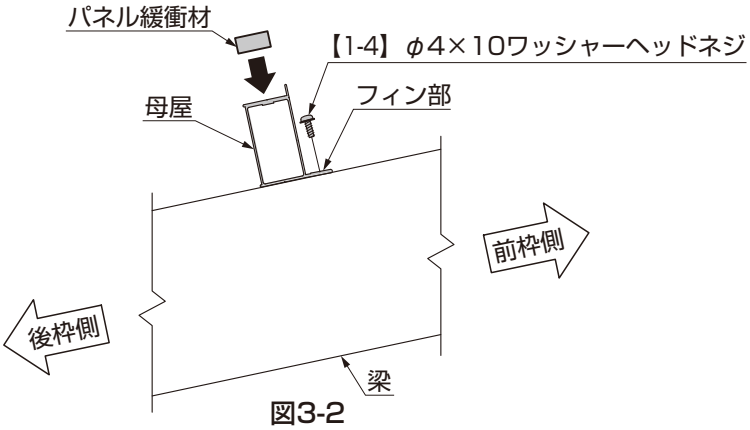


図3-2

④前枠を梁に【1-4】で取付けてください。（図3-3参照）

ポイント

- 柱を移動した場合は、前枠・後枠・母屋を梁に合わせて後枠はφ3.5、前枠・母屋はφ4.5の穴加工を行なってください。
- 既存の加工穴には穴隠しシールを貼ってください。

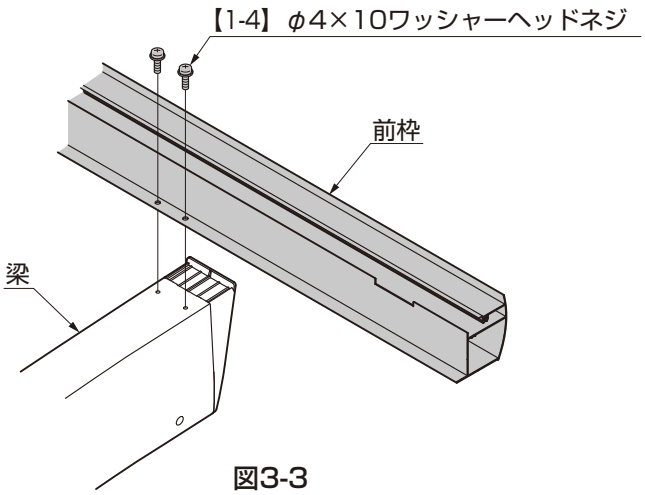


図3-3

ポイント

- 耐風圧仕様の場合は梁と前枠の交差する場所に【17-2】を1つ追加してください。
- 詳細は「4-2 耐風圧オプションの取付け オプション」を参照してください。

4. 側枠・アーチの取付け

4-1 側枠・アーチの取付け

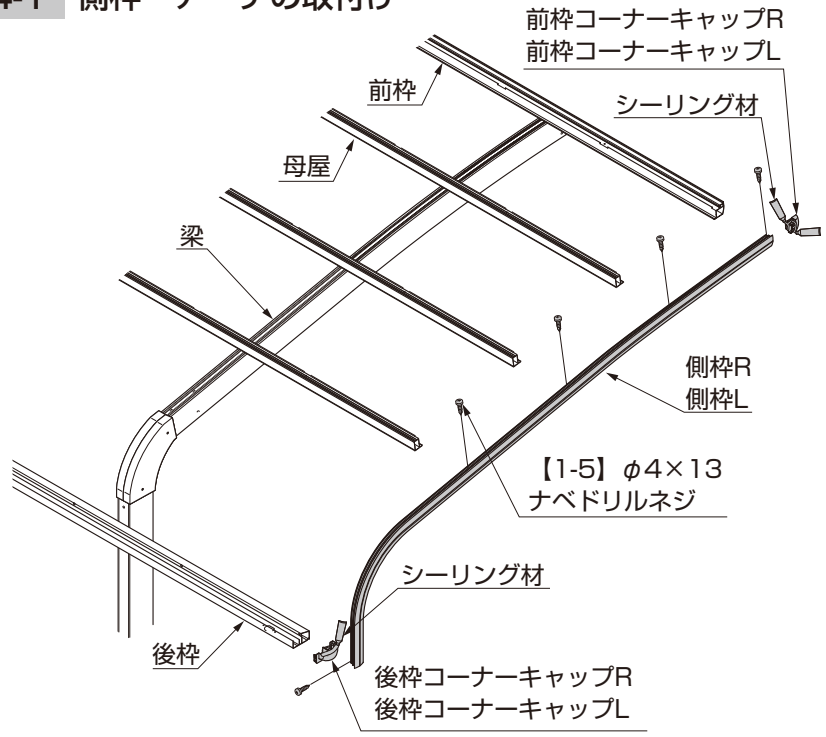


図4-1

①前枠コーナーキャップR・前枠コーナーキャップLおよび後枠コーナーキャップR・後枠コーナーキャップLにシーリング材を充てんして、側枠R・側枠Lに取付けてください。（図4-1、図4-2参照）

ポイント

- 600タイプの耐風圧仕様の場合は、母屋に母屋補強材を挿入後、側枠R・側枠Lを取付けてください。
- 詳細は「4-2 耐風圧オプションの取付け オプション」を参照してください。

②前枠・後枠・母屋に側枠R・側枠Lの穴を合わせて、【1-5】で取付けてください。

③前枠・後枠・母屋にアーチの穴を合わせて、【1-5】で取付けてください。（図4-3参照）

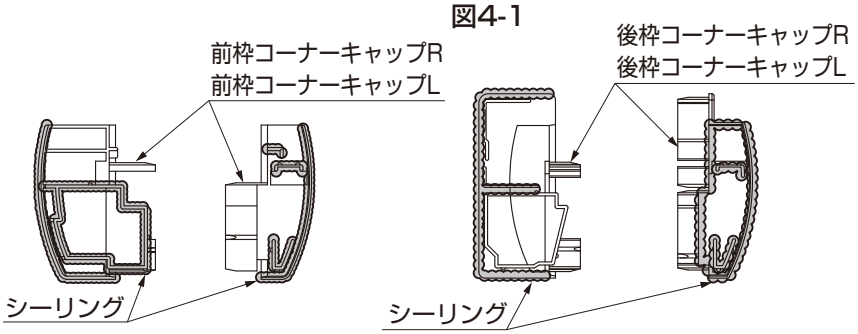


図4-2

④屋根枠まわりの対角・水平および柱の垂直を出してください。

補 足

- 前枠・母屋には加工穴はあいていません。

ポイント

- 1500タイプの耐風圧仕様の場合は、アーチと母屋の交差する場所に【14-1】を1つ追加してください。
- 詳細は「4-2 耐風圧オプションの取付け オプション」を参照してください。

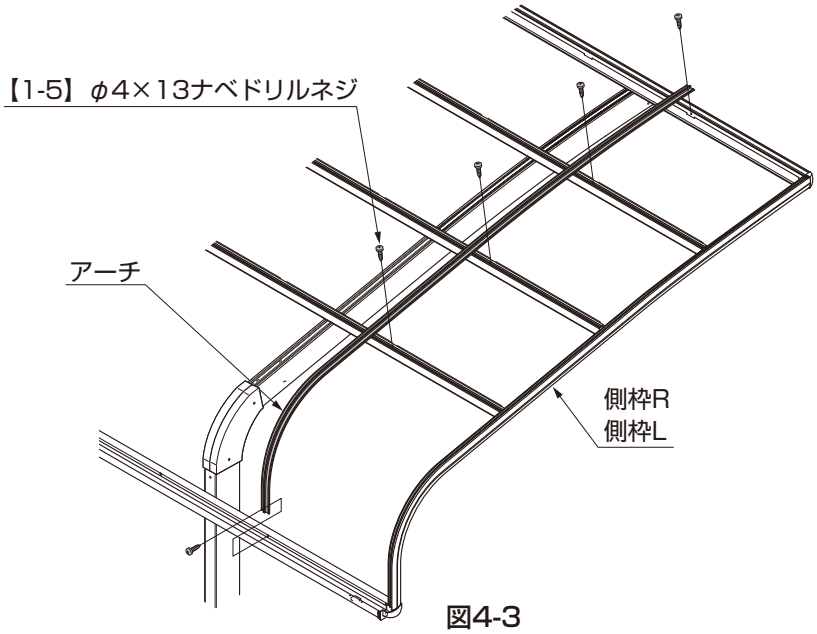
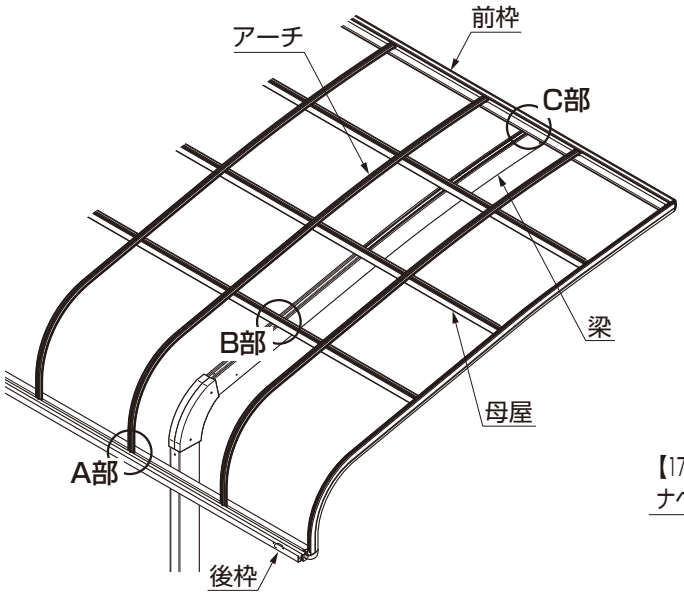
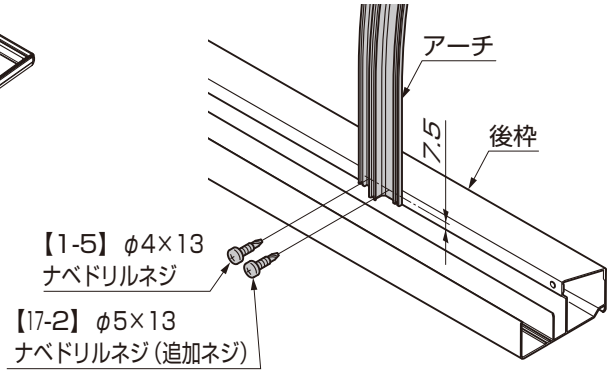


図4-3

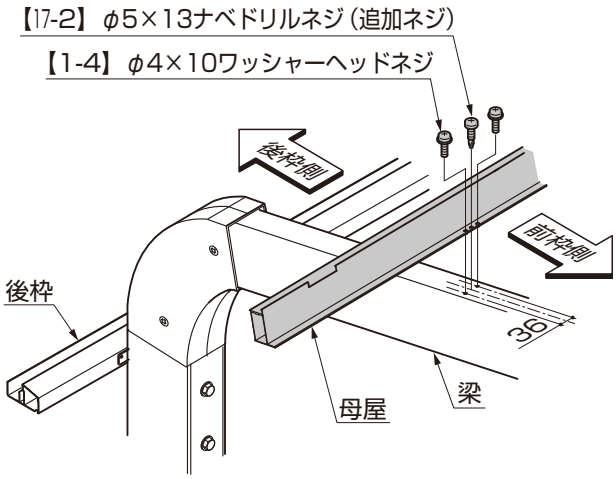
4-2 耐風圧オプションの取付け オプション

（1）600タイプ

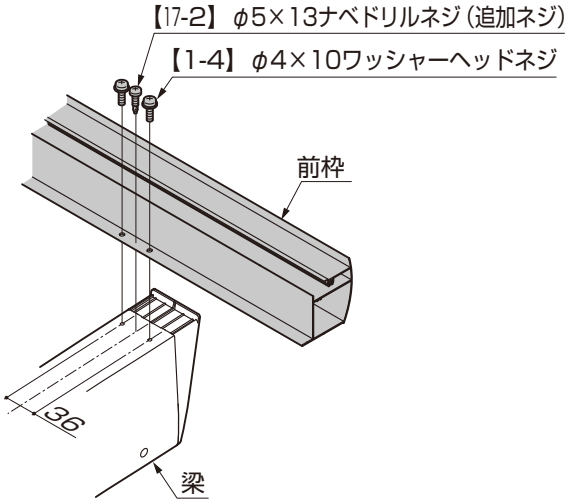




A部　後枠とアーチの取付け



B部　梁と母屋の取付け



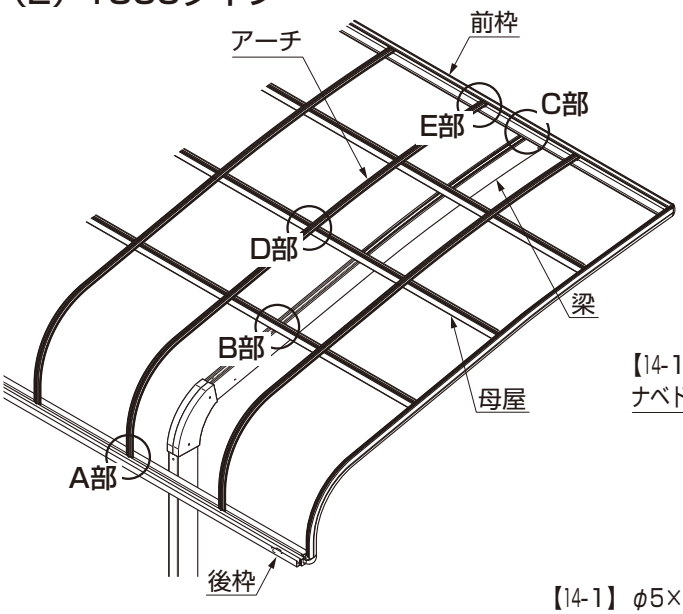
C部　梁と前枠の取付け

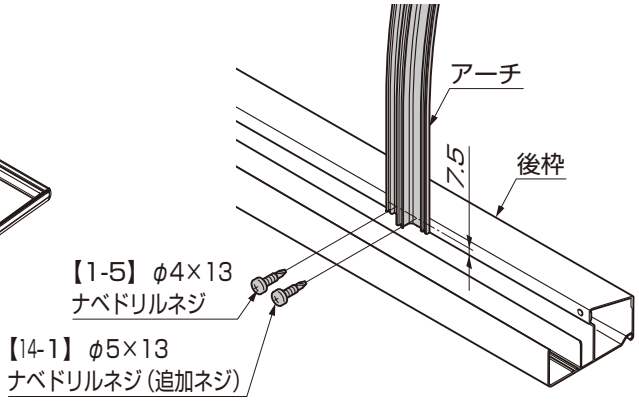
①後枠とアーチを固定している【1-5】の隣に、母屋補強材セット同梱の【17-2】を取付けてください。（A部参照）
②母屋、前枠と梁を固定している【1-4】の中間に母屋補強材セット同梱の【17-2】を取付けてください。
（B・C部参照）

ポイント

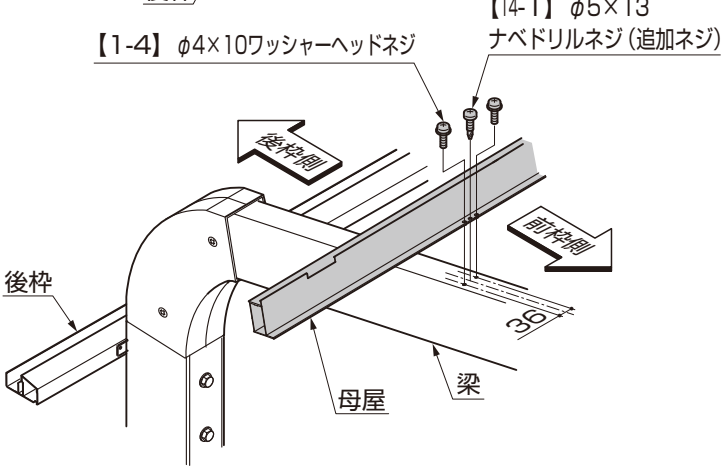
●間口24・30型の耐風圧仕様の場合、柱側母屋と梁にφ4.5の下穴をあけてから【17-2】を追加でネジ止めしてください。

(2) 1500タイプ

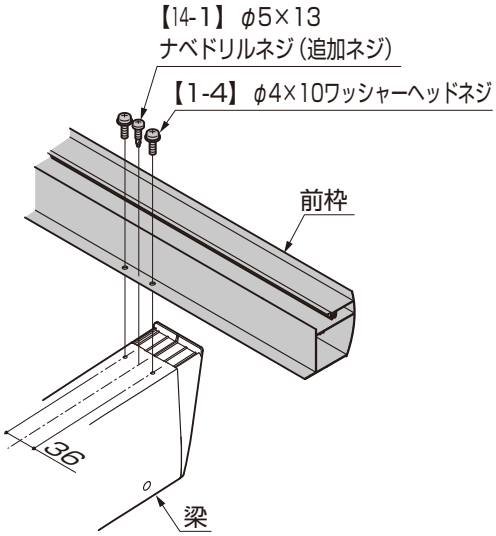




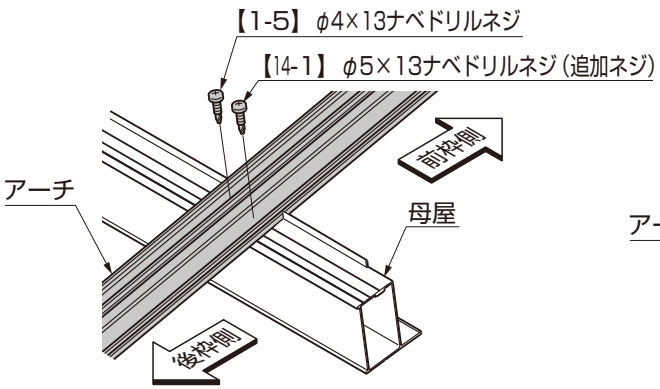
A部　後枠とアーチの取付け



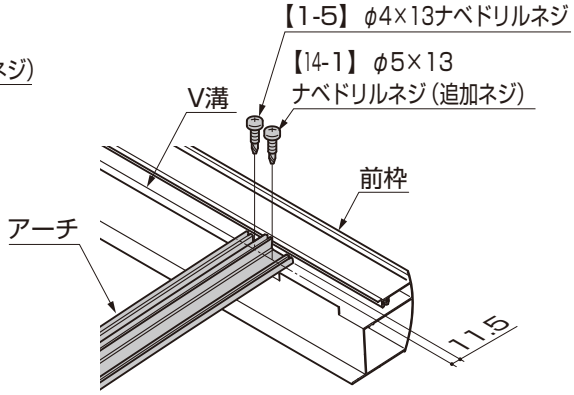
B部　梁と母屋の取付け



C部　梁と前枠の取付け



D部　母屋とアーチの取付け



E部　前枠とアーチの取付け

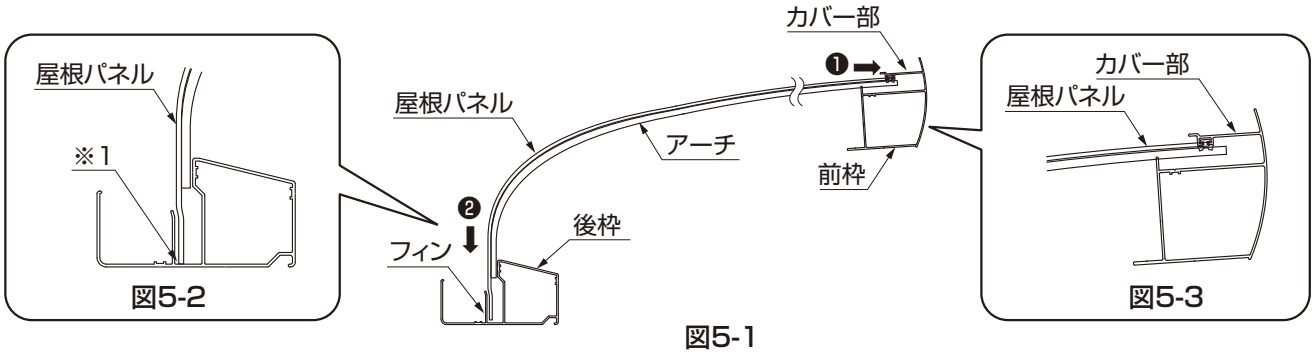
①後枠、母屋、前枠とアーチを固定している【1-5】の隣に、【14-1】を取付けてください。（A・D・E部参照）
②母屋、前枠と梁を固定している【1-4】の中間に【14-1】を取付けてください。（B・C部参照）

ポイント

●間口24・30型の耐風圧仕様の場合、柱側母屋と梁にφ4.5の下穴をあけてから【14-1】を追加でネジ止めしてください。

5. 屋根パネルの取付け

5-1 屋根パネルの取付け



①屋根パネルを前枠のカバー部に差込み、後枠のフィンの内側に差込んでください。

ポイント

- ●屋根パネルは後枠側に突き当ててください。（※1）
- ●アーチ部ののみ込み寸法は、左右均等にしてください。
- ●屋根パネルは必ず裏表を確認し、保護シートをはがしてください。

5-2 側枠カバー・アーチカバーの取付け

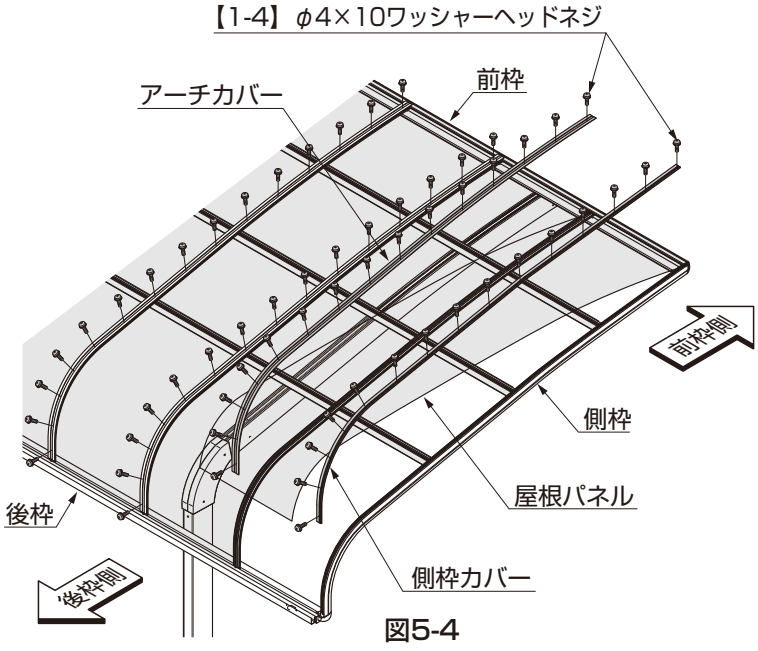


図5-4

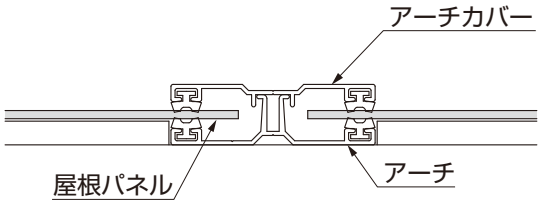


図5-5

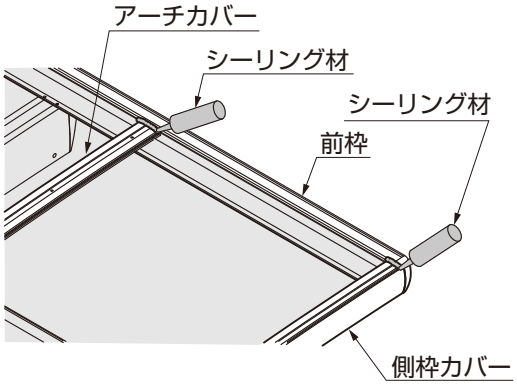


図5-6　シーリング箇所

①アーチカバー・側枠カバーを前枠に突き当てて、前枠側からアーチ・側枠に【1-4】で取付けてください。（図5-4参照）

ポイント

- ●アーチとアーチカバーがかみ合っていることを確認してください。（図5-5参照）

②前枠とアーチカバーの間と前枠と側枠カバーの間にシーリング材を充てんしてください。（図5-6参照）

5-3 屋根材ホルダーの取付け オプション

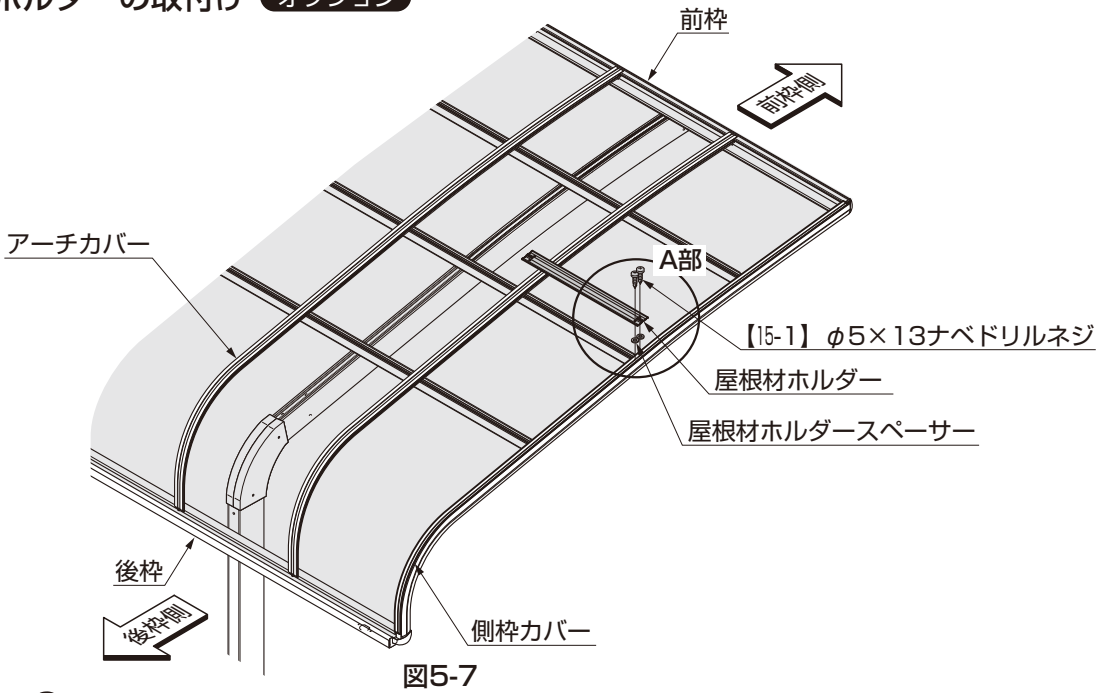


図5-7

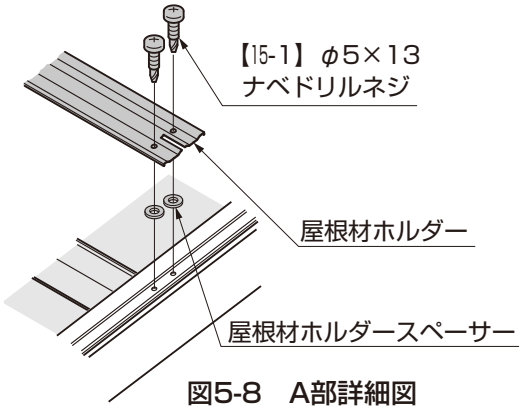


図5-8　A部詳細図

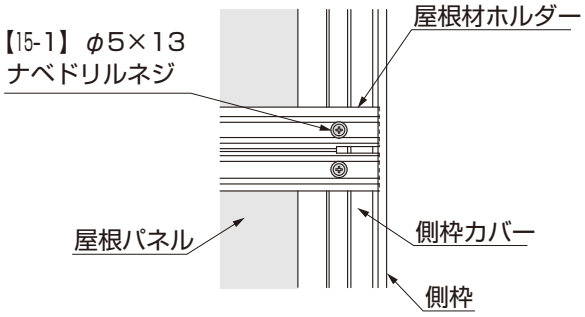


図5-10

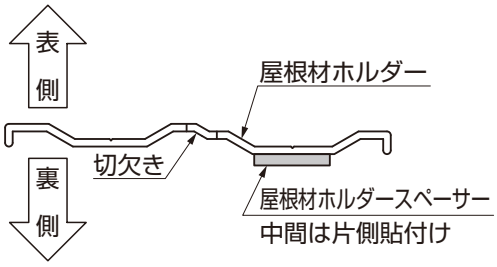


図5-9　屋根材ホルダー断面図

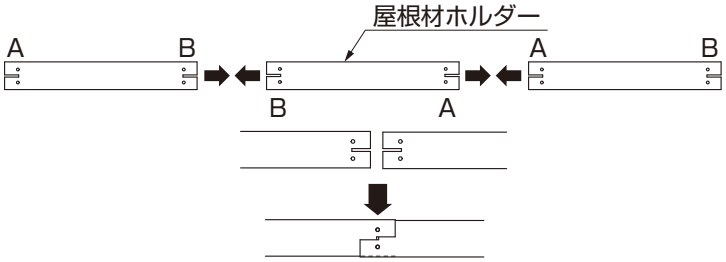


図5-11

①屋根材ホルダーを後枠側から数えて2本目の母屋の真上の位置に【15-1】で取付けてください。(図5-7参照)

ポイント

- ●屋根材ホルダー下面に屋根材ホルダースペーサーを貼付けてください。(端部：図5-8、中間：図5-9参照)
- ●側枠カバー側のネジだけを固定して、反対側は次の屋根パネルとアーチカバーを取付けた後で固定してください。(図5-10参照)
- ●2本目以後の取付けは、1本目の屋根材ホルダーと反対向きにして、切り込み部分をかみ合わせるように取付けてください。(図5-11参照)

6. 竪樋の取付け

シーリング材
（※1）
後枠
水抜き穴
アタッチメントパッキン
【1-4】
φ4×10ワッシャーヘッドネジ
後枠
水抜き穴
接着剤塗布
竪樋
L
雨樋アタッチメント
アタッチメントパッキン
ドレンエルボ
接着剤塗布
雨樋穴ふさぎキャップ
【1-5】φ4×13ナベドリルネジ
【1-4】φ4×10ワッシャーヘッドネジ
竪樋
でんでん
接着剤塗布
92°エルボ

表6-1　600タイプ 竪樋切断寸法

サイズ	L
50	725
57	925
14	465

表6-2　1500タイプ 竪樋切断寸法

サイズ	L
50	520
56	625
12	375

①竪樋を切断してください。（表6-1・表6-2参照）

補 足

●柱を移動している場合は、寸法が異なります。

②後枠両端の片方の水抜き穴にアタッチメントパッキン、雨樋アタッチメント、ドレンエルボ、竪樋、92° エルボ、でんでんを接着剤と【1-4】、【1-5】で取付けてください。
③もう一方の水抜き穴に、アタッチメントパッキン、雨樋穴ふさぎキャップを【1-4】で取付けてください。
④ネジ部にシーリングを充てんしてください。（※1）

4　M合掌の施工方法

1. 基礎の施工

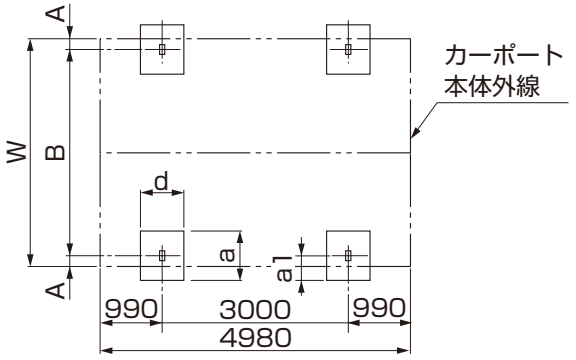


図1-1　600タイプ 50サイズ

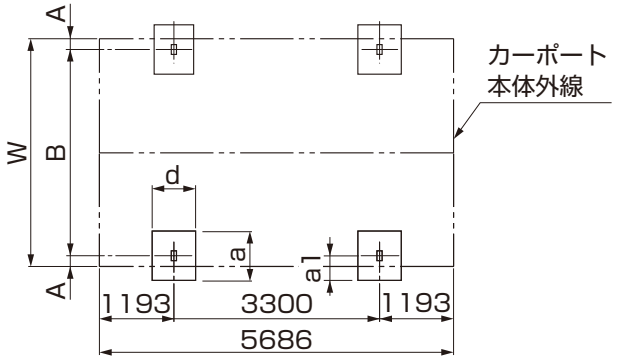


図1-2　600タイプ 57サイズ

表1-1　600タイプ 寸法表

単位mm

サイズ呼称	W（屋根寸法）	A	B（柱芯々寸法）	土間なし			土間コンクリート		
				a	a1	d	a	a1	d
24−24	4814	167	4480	700	300	600	400	200	300
27−27	5414	167	5080	700	300	600	400	200	300
30−30	6014	168.5	5677	800	300	700	500	250	300

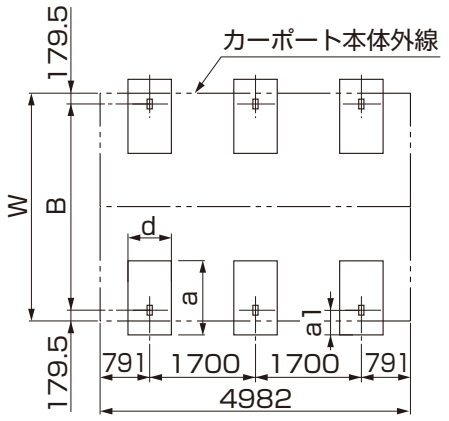


図1-3　1500タイプ 50サイズ

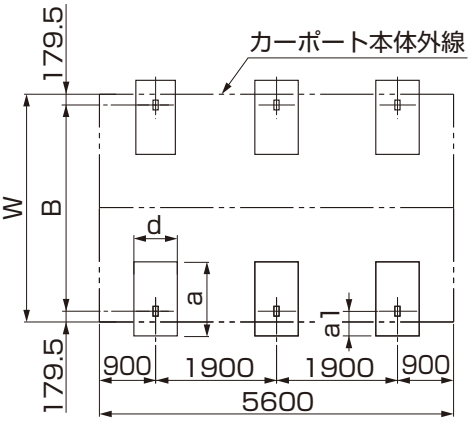


図1-4　1500タイプ 56サイズ

表1-2　1500タイプ 寸法表

単位mm

サイズ呼称	W（屋根寸法）	B（柱芯々寸法）	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
			a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
24−24	4818	4459	900	300	800	700	250	400	400	200	300
27−27	5418	5059	900	300	800	700	250	400	400	200	300
30−30	6018	5659	1000	300	800	800	250	400	400	200	300

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●間口、奥行サイズにより基礎穴の大きさが変わります。
●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

2. 本体の組立て

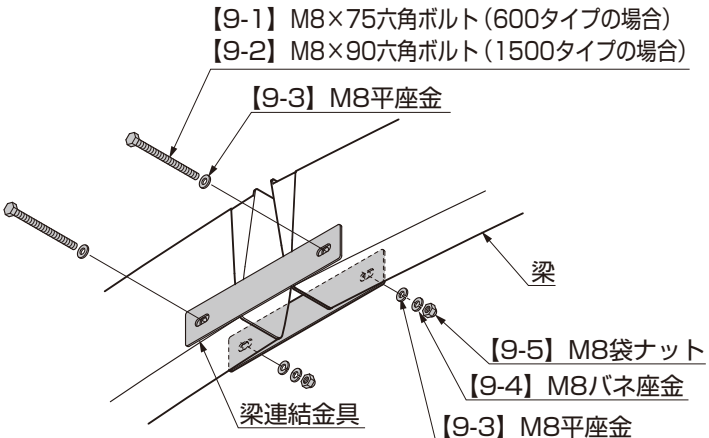


図2-1

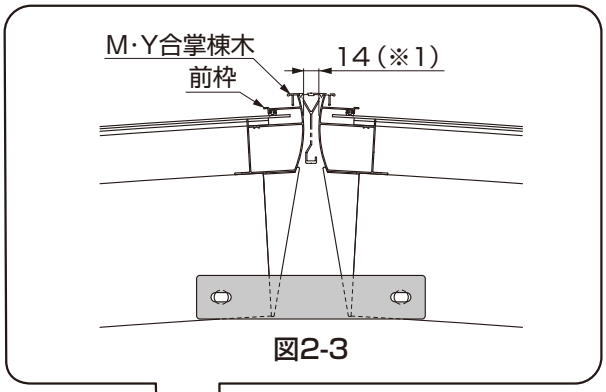


図2-3

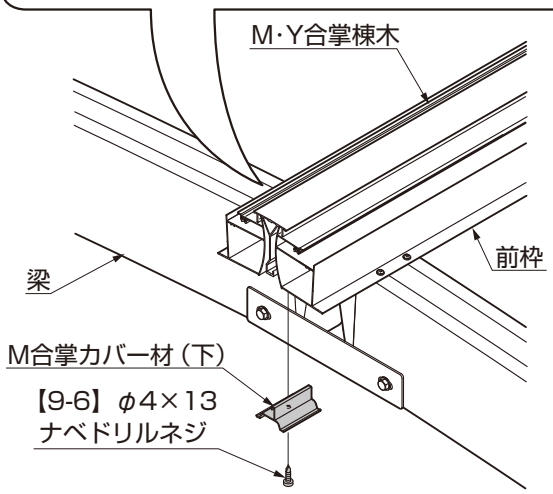


図2-2

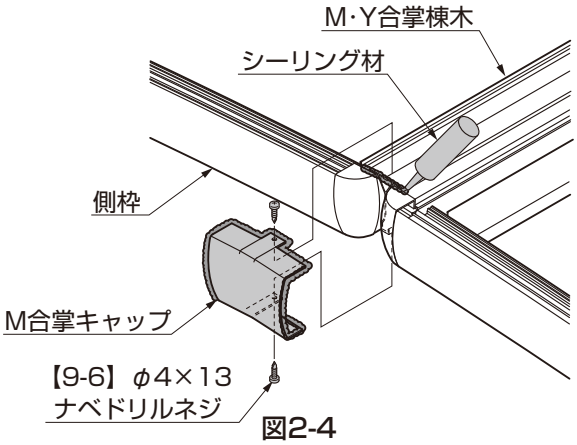


図2-4

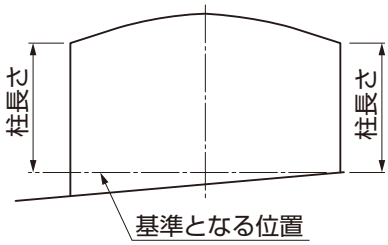
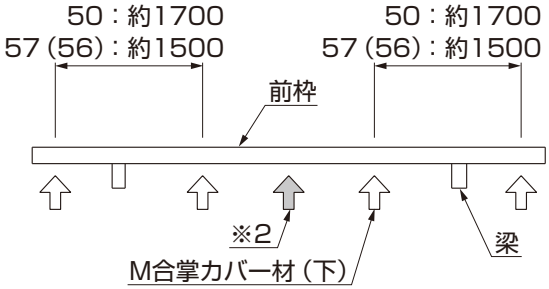


図2-5



M合掌カバー材（下）取付け位置

①柱、梁を組立てて建て込み、梁のプッシュボタンを外した後、梁と梁を梁連結金具で接続してください。（図2-1参照）
②M・Y合掌棟木を前枠と前枠の間に乗せてM合掌カバー材（下）で固定してください。（図2-2参照）
③M合掌キャップおよびM・Y合掌棟木にシーリング材を充てんし、M合掌キャップを【9-6】で取付けてください。（図2-4参照）

ポイント

●柱は基準となる位置から同じ高さとしてください。合掌棟木に水がたまり、漏水するおそれがあります。（図2-5参照）

補 足

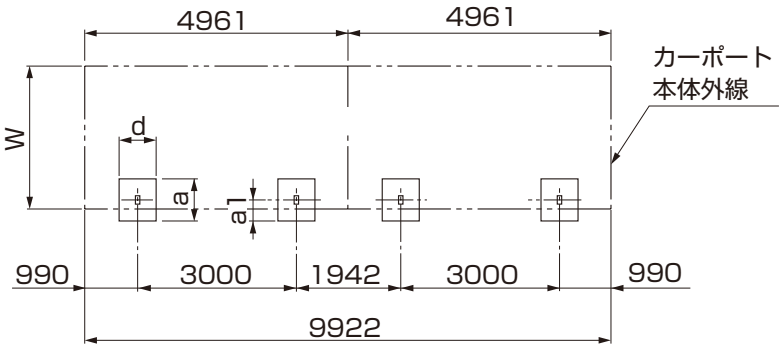
●M合掌部以外の取付けは、「3　基本の施工方法」を参照してください。
●前枠と前枠間隔は14mmであることを確認してください。（※1）
●57型は、M合掌カバー材（下）を奥行き中心にも取付けてください。（※2）
●56型（1500タイプ）はM合掌カバー材（下）を奥行き中心に取付ける際、中心の梁が干渉するため、中心の梁を避けて取付けてください。

5　縦連棟の施工方法

1. 基礎の施工

1-1　600タイプ

（1）奥行き50サイズ+50サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

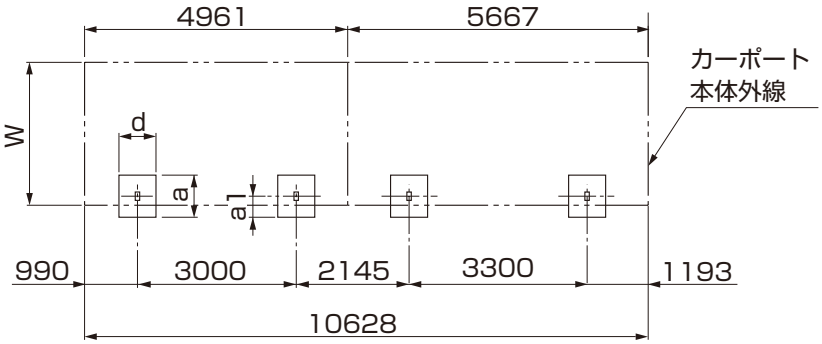
補 足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-1　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート		
		a	a1	d	a	a1	d
24	2400	700	300	600	400	200	300
27	2700	700	300	600	400	200	300
30	3000	800	300	700	500	250	300

（2）奥行き50サイズ+57サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

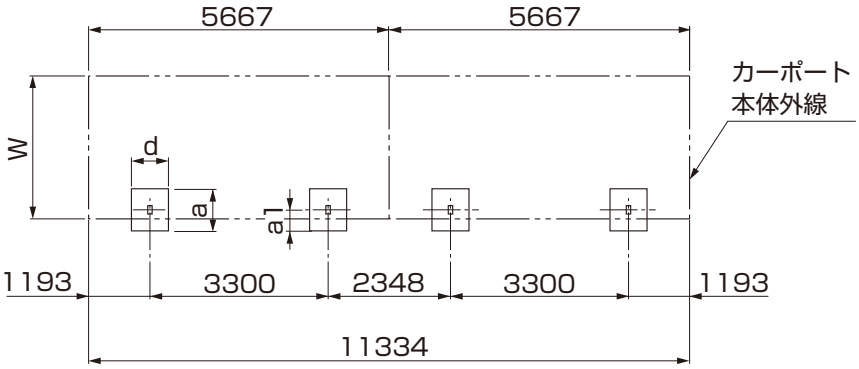
●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-2　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート		
		a	a1	d	a	a1	d
24	2400	700	300	600	400	200	300
27	2700	700	300	600	400	200	300
30	3000	800	300	700	500	250	300

D452_201301C
MAL-900_201301B

(3) 奥行き57サイズ+57サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

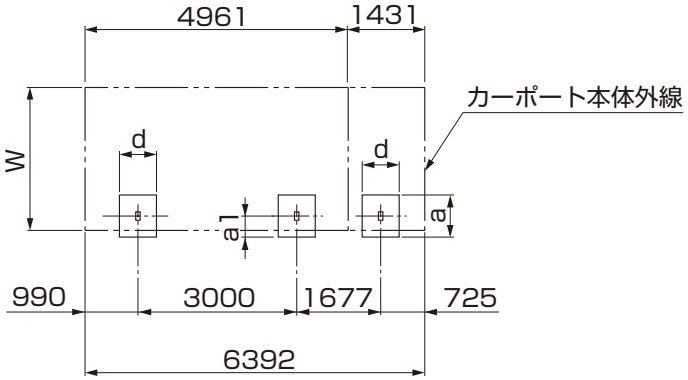
補 足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-3　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート		
		a	a1	d	a	a1	d
24	2400	700	300	600	400	200	300
27	2700	700	300	600	400	200	300
30	3000	800	300	700	500	250	300

(4) 奥行き50サイズ+14サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

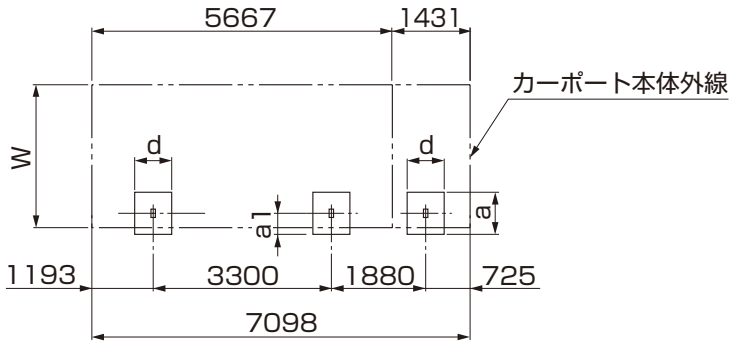
●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-4　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート		
		a	a1	d	a	a1	d
24	2400	700	300	600	400	200	300
27	2700	700	300	600	400	200	300
30	3000	800	300	700	500	250	300

1. つづき

(5) 奥行き57サイズ+14サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

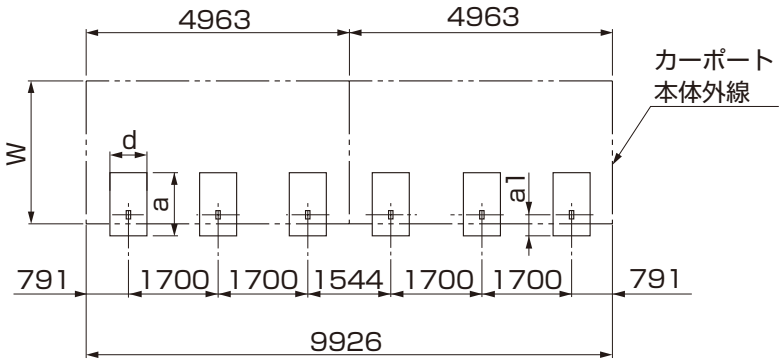
●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-5　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート		
		a	a1	d	a	a1	d
24	2400	700	300	600	400	200	300
27	2700	700	300	600	400	200	300
30	3000	800	300	700	500	250	300

1-2 1500タイプ

(1) 奥行き50サイズ+50サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

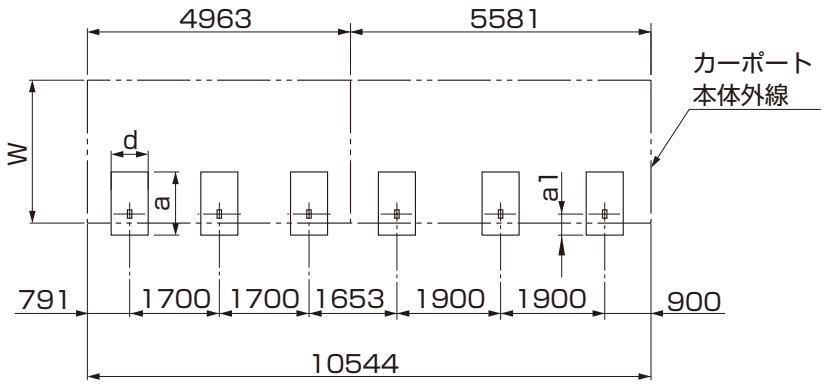
補 足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-6　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
		a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
24	2400	900	300	800	700	250	400	400	200	300
27	2700	900	300	800	700	250	400	400	200	300
30	3000	1000	300	800	800	250	400	400	200	300

(2) 奥行き50サイズ+56サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

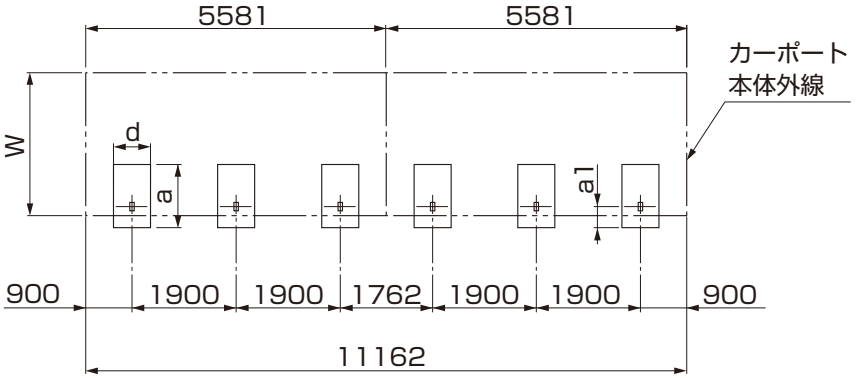
●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-7　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
		a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
24	2400	900	300	800	700	250	400	400	200	300
27	2700	900	300	800	700	250	400	400	200	300
30	3000	1000	300	800	800	250	400	400	200	300

(3) 奥行き56サイズ+56サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。

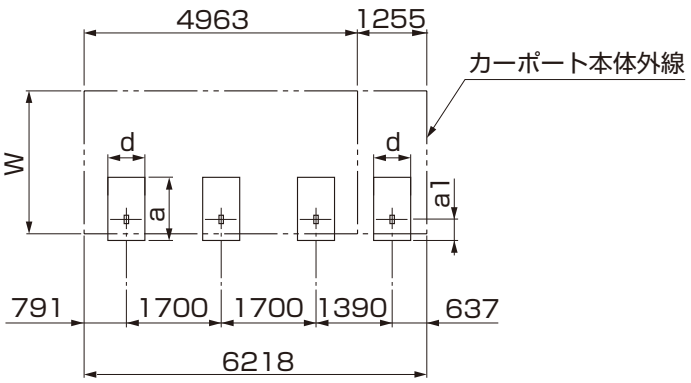
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-8　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
		a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
24	2400	900	300	800	700	250	400	400	200	300
27	2700	900	300	800	700	250	400	400	200	300
30	3000	1000	300	800	800	250	400	400	200	300

1. つづき

(4) 奥行き50サイズ+12サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

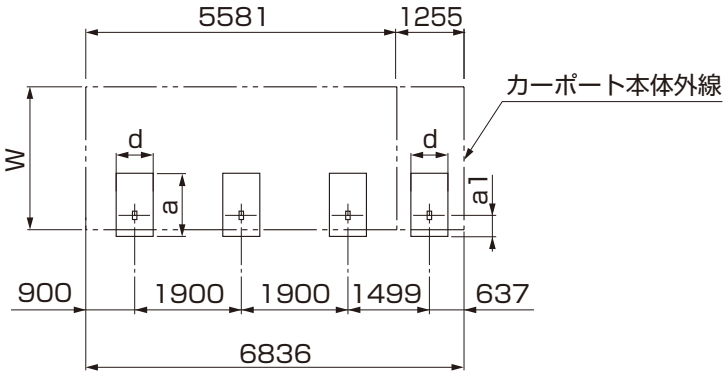
補 足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-9　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
		a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
24	2400	900	300	800	700	250	400	400	200	300
27	2700	900	300	800	700	250	400	400	200	300
30	3000	1000	300	800	800	250	400	400	200	300

(5) 奥行き56サイズ+12サイズ



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-10　　単位mm

サイズ呼称	W	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
		a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
24	2400	900	300	800	700	250	400	400	200	300
27	2700	900	300	800	700	250	400	400	200	300
30	3000	1000	300	800	800	250	400	400	200	300

2. 本体の連結

2-1 連棟部の加工 ※(　)寸法は1500タイプを示します。

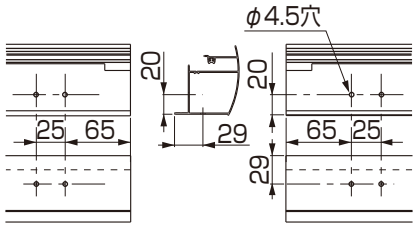


図2-1　前枠の加工

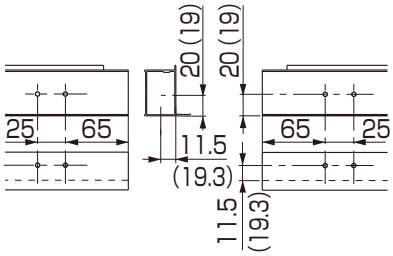


図2-2　母屋の加工

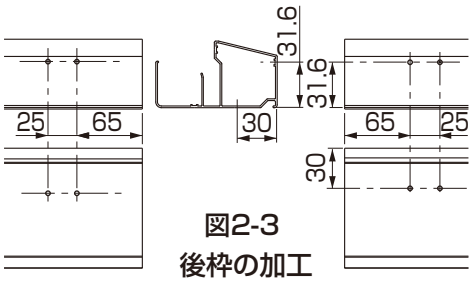
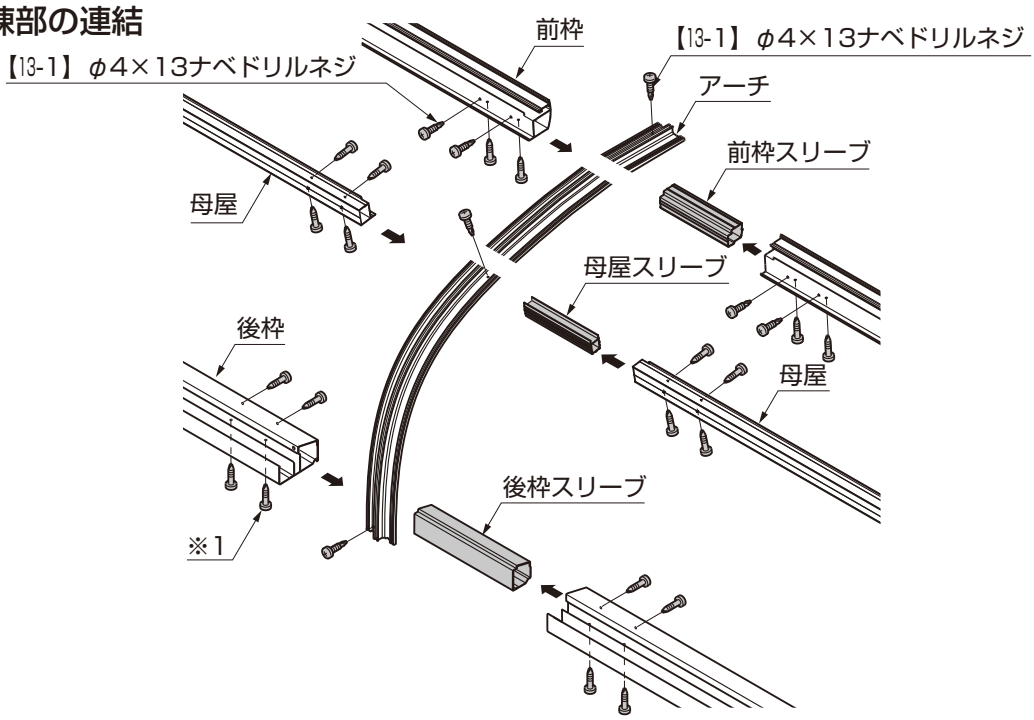


図2-3
後枠の加工

ポイント

●母屋側面の穴加工はフィン側にしてください。
●前枠・母屋・後枠の連棟側を穴加工してください。(図2-1、図2-2、図2-3参照)

2-2 連棟部の連結

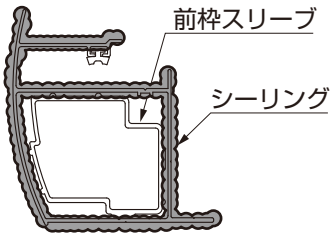


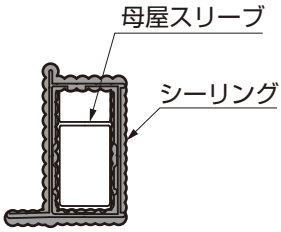
①後枠スリーブを取付ける【13-1】にシーリング材を充てんしてください。(※1)
②前枠・母屋・後枠にそれぞれ前枠スリーブ、母屋スリーブ、後枠スリーブを【13-1】で取付けて連結してください。
③全ての【13-1】の回りにシーリング材を充てんしてください。

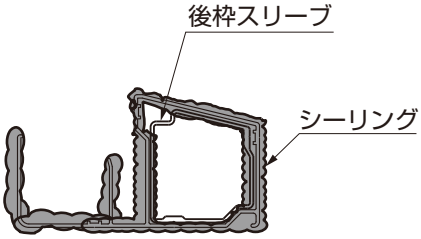
ポイント

●連棟部分以外の組立ては、「3　基本の施工方法」を参照してください。

2-3 シーリング処理







①連棟部分にシーリング材を充てんしてください。

3. M合掌の縦連棟

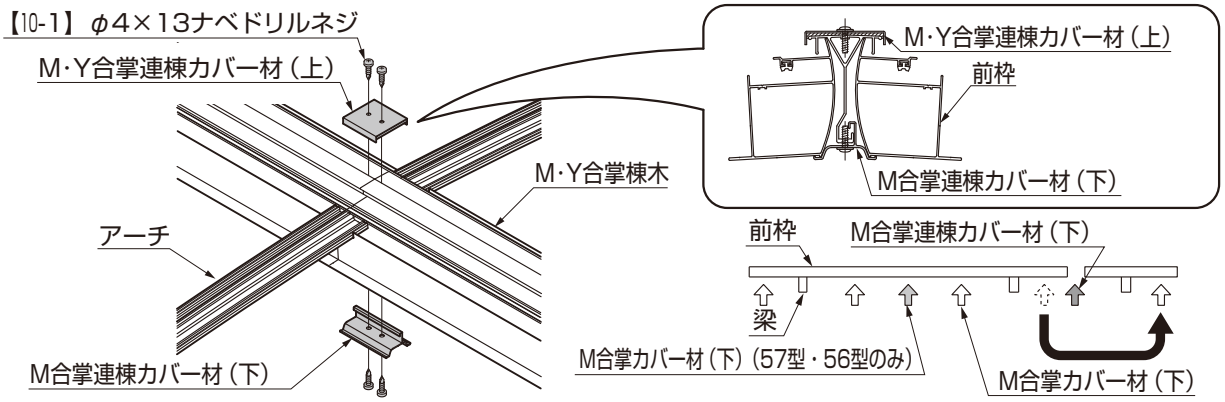


図3-1　M合掌縦連棟　　図3-2　M合掌カバー材（下）取付位置

①M合掌の棟木の接続部にM・Y合掌連棟カバー材（上）、連棟カバー材（下）を【10-1】で取付けてください。（図3-1参照）

ポイント

●14延長・12延長の場合のM合掌カバー材（下）取付位置は図3-2を参照してください。

補 足

●連棟部以外の取付けは、「4　M合掌の施工方法」を参照してください。

4. 落雪カバーの取付け　オプション

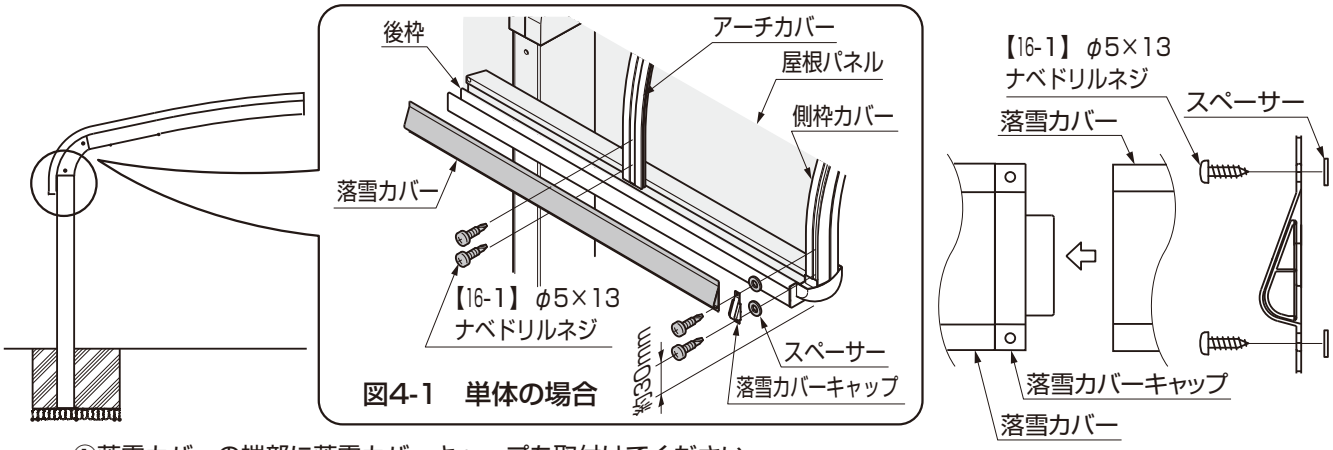


図4-1　単体の場合　　図4-2　連棟する場合

①落雪カバーの端部に落雪カバーキャップを取付けてください。
②アーチカバーの上に落雪カバーを置き、位置を決めてください。
③落雪カバーをアーチカバー、側枠カバーに【16-1】で取付けてください。

補 足

●落雪カバーキャップと側枠カバーのすき間にスペーサーを貼付けてください。（図4-1参照）
●連棟時は、連棟側の一方のキャップを取り、もう一方のキャップと連結し、アーチカバーのすき間にスペーサーを貼付けてください。（図4-2参照）
●落雪カバーがアーチカバー取付けネジと干渉する場合は、干渉しないところに取付けてください。